

藤井達吉作「万葉植物歌絵帖」及び「万葉植物歌絵帖試作（一）」 「万葉植物歌絵帖試作（二）」（長田三和子・義男コレクション）について

日置 樹也

はじめに

二〇一九年、碧南市藤井達吉現代美術館に、長田三和子・義男コレクションが寄贈された。本コレクションは長田三和子氏旧蔵の作品群である。その内容は藤井の手掛けた軸装作品四十九点、屏風七点、額一点、画帖とその試作、藤井篠の作と伝わる衝立一点など五十九点の作品に加え、書簡や捲り等の資料で構成されている¹⁾。

いくつもの藤井の力作を含め、多くの作品を所蔵していた長田三和子氏（長田家）と藤井達吉との関係は、三和子氏の祖父秀吉氏（号・光浴）が藤井と深い近所付き合いをしていたことである。例えば、一八九五年、大野（現知多市）の木綿屋が朝鮮元山の支店開設にあたり、十五歳の藤井は長田秀吉の兄半太郎と一緒に行き、砂金の係として約三年朝鮮に滞在している。また一九五〇年藤井は、小原から「知友のすゝめによりて」碧南市の道場山へ移住している。この知友が「心身ともに疲労困憊の状態を見た」棚尾の長田秀吉ら」とされている⁴⁾。

様々な作品や資料によって構成される本コレクションであるが、本稿ではその中でも、画帖「万葉植物歌絵帖」、そしてその試作である「万葉植物歌絵帖試作（一）」「万葉植物歌絵帖試作（二）」に着目する。本作品群を詳しく取り上げることで、今後の藤井達吉研究の端緒の一つとなることを期待したい。

本作品群に関わる言説

これらの作品に関する言説は管見の限り、それほど多くはない。しかしながら、藤井達吉と深い交流を持った、また藤井の研究を行った岡清蔵、山田光春の両氏がこれらと同種、あるいは類似していると思われる作品について言及している。

岡清蔵は『孤高の芸術家藤井達吉翁』の中で、昭和二十二（一九四七）年に藤井のアトリエで、「万葉植物画巻（二十二巻）」、「万葉植物図（二百数十枚）」を見たこと、それらにはことごとく和歌が書き込まれ、また紙も異なるものであったとしている。そしてこれらを熱覧するには一週間ぐらいは必要であること、驚くべき努力の結集であった

と評している。

ここでは万葉植物図（二百数十枚）と述べているが、その特徴から画帖「万葉植物歌絵帖」、そしてその試作である「万葉植物歌絵帖試作（一）」「万葉植物歌絵帖試作（二）」である可能性が高い。

次に山田光春は先述した岡の言説を取り上げ、「万葉和歌植物絵巻」「万葉植物歌絵帖」が小原での最初の制作であったこと、どちらも広範な植物を料紙材色に変化をもたせた上に歌を散らした大変な力作であるだけでなく、達吉の代表作といふべきものであり、継色紙の出現を予見させる技法が用いられている点からも意義の深いものであると述べている⁵⁾。

加えてこれらの作品の現存例はいずれも試作であること、本描きがあるようではないこと、所蔵者である長田光浴が表装しようとしたときに長逝したために完成することなく、今日に至っているとしている。

ここでは岡と異なり、万葉植物図を「万葉植物歌絵帖」として語っている。一方で山田は「万葉和歌植物画冊」の一枚の画像を掲載し、前述の「万葉植物歌絵帖」の言説を述べている。ここで登場する一枚は「万葉植物歌絵帖」の七頁のものと酷似している。

岡、山田の言説に作品名の揺れがあるものの、来歴や言説から両者の述べる作品は「万葉植物歌絵帖」、そしてその試作である「万葉植物歌絵帖試作（一）」「万葉植物歌絵帖試作（二）」である可能性は高いと思われる。

画帖「万葉植物歌絵帖」と「万葉植物歌絵帖試作」

では作品について詳しく見ていこう。「万葉植物歌絵帖」は全一三葉からなる画帖である。それぞれ和紙に継紙、布などを組み合わせ、墨や彩色に金銀箔で彩り、和歌を添えた作品である。「万葉植物」という名前の通り、万葉集の和歌を引用し、万葉集に詠まれた植物を題材にしている。

表1には「万葉植物歌絵帖」それぞれの図様及び和歌をまとめた。各頁には和歌一首と登場する植物や情景が、彩色や箔、継紙などで表現されている。画面の中央に詠まれた植物を配するもの、植物のある情景を描くものが多い。描かれる植物は、シンプルながらそれぞれの特徴がよく表現されている。一方で三頁には和歌からイメージされる情景を墨線と淡彩で描き、五頁、一〇頁には抽象的にも思える構成がなされる。

全体を通して和歌を詠んだ特定の作者や題材をピックアップした、あるいは季節ごとにセレクトした、といった意図を見出すことは難しく思われる。

二頁、九頁、一二頁の図様には文字の判別が困難な、あるいは一部文字、語句が書かれていないものがある。特に二頁、大木と銀杏を描いた頁では、緑字で「知智乃實乃／父／能／美／許／等」／は改行を表す。／は筆者による）

と書き、その先は記載を確認することができない。しかし本来の歌は「知智乃實乃 父能美許等 波播蘇葉乃 母能美已等 於保呂可尔 情盡而 念良牟 其子奈礼夜母 大夫夜（无）奈之久可在 梓弓 須惠布理於許之 投矢毛知 千尋射和多之 劔刀 許思尔等理波伎 安之比奇能 八峯布美越 左之麻久流 情不障 後代乃 可多利都具倍久 名乎多都倍志母」である。歌が長く、図様とのバランスを考慮し藤井が省略したのか、何か意図があったのか、現段階では不明である。

そして本作には「一六五、萬葉の植物絵 長田三和子氏蔵（別筆）昭和二十五年」（図1）というメモが同封されている。このメモの年代が制作年を表すのであれば、本作の制作年は一九五〇年と考えられるが、碧南市藤井達吉現代美術館では制作年を伝一九五〇年、としている。

一方「万葉植物歌絵帖試作（二）」万葉植物歌絵帖試作（二）はそれぞれ包みに分けられている。どちらも表装等はされていない。

ではそれぞれを詳しく見ていこう。「万葉植物歌絵帖試作（一）」（以下「試作（一）」とする）は各二四・五×三〇・〇cm程度（折れや破れ等があるため）、全一四二葉（一二分包×各一一〜一二葉）である。表2には全一四二葉の図様、和歌をまとめた。

「試作（一）」も「万葉植物歌絵帖」と同様に和歌と題材となる植物やその情景を描く。墨画や彩色、金銀箔や金銀泥、漉込、継紙に加え、1ー5や1ー67、1ー75、1ー122のように螺鈿や漆、ろうけつ染めなど多様な表現を見ることができ。

図様に着目すると画面の中央に景物を配したものの、左右どちらかに景物を配し三角構図をとるもの、全体に景物、模様等を配したものなど一定のパターンが想定されるもののほか、1ー111や11ー140のように漉込、継紙によって画面の大部分を構成するものも見られる。

そしてこれらは一部布に描かれたものもあるが、藤井の多くの絵画作品と同様、ほとんどが紙を支持体としている。「試作（一）」で採用されている和歌は、和歌の記載のないもの、筆者による文字の判読が困難なものを除き一二五首あり、全一四二葉のうち、一六の和歌が二、三種類の図様に添えられている。

また和歌の書き方として、仮名をあてて和歌を記すものや原文と異なる漢字をあてるものが多いが、一部和歌を原文で書いたものも見られる。和歌の句切れによる語句の区切り、改行があるものもあれば、語句の区切りに則さない改行が行われる例も多い。加えて、試作の和歌は全て文字を重ねて、二重に書き連ねられていることも特徴だろう。そして一部1ー10のように読み下しのメモが付属する図様が見られた。

同じ和歌が採用されたものは、それぞれ1ー4と1ー13、1ー8と1ー22と1ー81、1ー62と1ー83、1ー17と1

ー31と1ー41、1ー19と1ー97、1ー54と1ー92、1ー94と1ー98、1ー34と1ー49と1ー106、1ー50と1ー53、1ー77と1ー78と1ー88、1ー10と1ー66、1ー35と1ー117、1ー59と1ー116、1ー38と1ー111、1ー14と1ー108と1ー120、1ー127と1ー130、一六首の和歌、三七の図様である。これらのほとんどが図様、仮名遣い共に異なっている。また「試作（一）」で引用された和歌のうち、引用部分が異なるものや歌の一部のみ記載されたものも見ることができ。1つの図様に1首の和歌を組み合わせる例がほとんどであるが、1ー125のみ、巻13に記載された3333、3334の和歌を引用しており、1つの図様に2首の和歌を組み合わせている。この2首は3334が3333の反歌という関係にあり、1つの図様に採用されていても違和感はないように思われる。

「試作（一）」の中には、「万葉植物歌絵帖」と同じ和歌を採用したものが一首確認できる。画帖九頁、試作1ー26は和歌が同じではあるが、画帖が紙本彩色、金箔、墨書によるのに対し、試作では黒地彩色となっており図様は大きく異なっている。

では次に「万葉植物歌絵帖試作（二）」を見ていく。「万葉植物歌絵帖試作（二）」（以下「試作（二）」とする）は各二四・五×三〇・〇cm程度、全一四四葉（一二分包×各一二葉）となっている。包紙には「萬葉植物歌絵帖試作（弐）百八十三葉昭和二十二年春日」（図2）と記されているが、三九葉は確認できず、散逸した可能性が考えられる。

表3には「試作（二）」全一四四葉の和歌、図様をまとめた。

まず「試作（二）」の図様に着目すると、和歌と題材となる植物やその情景を描いており、この点は「試作（一）」「万葉植物歌絵帖」と同様である。墨画や彩色、金銀箔や金銀泥、漉込、継紙による表現という点も同様である。一方で螺鈿やろうけつ染めといった技法、表現は見られず、また「試作（一）」1ー111、1ー123や1ー140、1ー117のように漉込、継紙によって画面の大部分を構成するものも見られない。全面を彩色したものよりも紙の地や余白を生かした図様が多く、より様々な技法を試した「試作（一）」に対して「試作（二）」は全体としてより絵画的にまとめられているといってもよいだろう。

和歌の書き方は「試作（二）」も「試作（一）」同様に、仮名をあてて和歌を記すものや原文と異なる漢字をあてるものが多い。和歌の句切れによる語句の区切り、改行があるものもあれば、語句の区切りに則さない改行が行われる例が多いこと、文字を重ねて、二重に書き連ねられている点も同様である。一方で「試作（一）」では付属していた読み下しメモは「試作（二）」では付属していなかった。

「試作（二）」には和歌の記載のないもの、和歌ではなく題詞を書いたものを除き全八五首の和歌が書かれる。

「試作（二）」内で採用された同じ和歌は一四首あり、その内訳は2ー23と2ー34、2ー43と2ー52、2ー7と2ー53、2ー4、2ー70、2ー22と2ー77、2ー61と2ー91、2ー80と2ー103、2ー104と2ー106、2ー14と2ー111、2ー

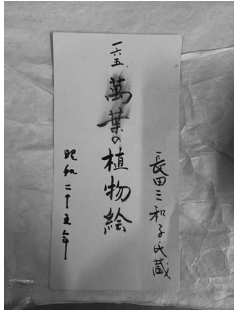


図1 「万葉植物歌絵帖」
付属メモ

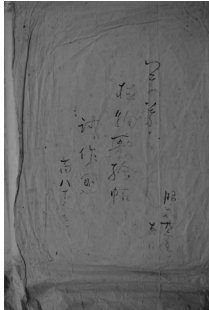


図2 「万葉植物歌絵帖試作（二）」包紙記載

73と2ー118、2ー68と2ー125、2ー107と2ー128、2ー90と2ー129、2ー57と2ー139、二八の図様である。これらのほとんどは「試作（一）」「同様に図様、仮名遣い共に異なっている。

また「試作（二）」と「試作（一）」に採用された同じ和歌は四二首あり、（その内訳は1ー32と2ー1、1ー109と2ー9、1ー74と2ー8、1ー55と2ー17、1ー90と2ー24、1ー113と2ー26、1ー6と2ー27、1ー96と2ー29、1ー47と2ー33、1ー70と2ー37、1ー62と2ー38、1ー68と2ー41、1ー104と2ー46、1ー61と2ー48、1ー56と2ー56、1ー99と2ー58、1ー10と2ー66と2ー61、1ー95と2ー63、1ー7と2ー69、1ー45と2ー71、1ー132と2ー73、1ー123と2ー74、1ー35と2ー117と2ー78、1ー139と2ー80、1ー131と2ー83、1ー141と2ー84、1ー107と2ー87、1ー59と2ー116と2ー90と2ー129、1ー10と2ー66と2ー61と2ー91、1ー135と2ー97、1ー64と2ー102、1ー139と2ー80と2ー103、1ー52と2ー105、1ー132と2ー73、2ー118、1ー93と2ー121、1ー101と2ー122、1ー44と2ー127、1ー127と1ー130と2ー130、1ー39と2ー131、1ー75と2ー136、1ー118と2ー140、1ー121と2ー143である）九三の図様が確認できる。これらもまた図様、仮名遣い共に異なっているものが多いが、1ー35と2ー78は比較的図様が似ているだろう。

「試作（二）」で引用された和歌も「試作（一）」同様、引用部分が異なるものや歌の一部のみ記載されたものも見ることができる。ここから藤井が意識的に図、仮名遣い、和歌の引用部分のバリエーションを増やして描いた可能性を想定できるだろう。

「試作（一）（二）」それぞれに和歌の表記が原文とは記載の異なるものが一定数確認されており、同じ和歌が採用された「試作」内でどちらも原文と異なるもの、どちらか一方のみ原文と異なるものとあることから、単純な藤井の記載ミスであるものに加え、藤井が読みを間違えた可能性、あるいは藤井が参照した万葉集の資料が誤っていた場合などが考えられるだろう。

一方で、和歌ではなく題詞を記載した図様が三種（2ー73、2ー44と2ー138）、和歌の記載のない図様が三種（2ー93、2ー141、2ー142）確認できた。題詞を記載した図様は2ー44と2ー138が同じ和歌の題詞から引用したものであった。和歌の記載のない図様は、三種とも墨画による表現が中心で「試作（一）」1ー2で見られた彩色に金銀箔を用いたものとは大きく異なっている。

次に「万葉植物歌絵帖」と比較していく。「試作（二）」と「万葉植物歌絵帖」に同じ和歌を採用したものは六首あり、その内訳は、画帖二二頁と「試作（二）」2ー6、画帖三頁と2ー23と2ー34、画帳七頁と2ー28、画帳一三頁と試作2ー64、画帳二頁と2ー107と2ー128、画帖二頁と2ー126、八つの図様である。こちらも図様、仮名遣い共に異なっているものが多い。あえて挙げるならば、画帳二頁と2ー128は構図が類似しているであろう。

「試作（二）」は紙の地や余白を生かした図様が多いが「万葉植物歌絵帖」ではそうした例は少ない。「試作（一）（二）」にて様々な表現技法、構成を文字通り試し、「試作（一）」よりも技法、表現を整理し、「試作（二）」よりも図様の構成要素を増やしている。

そして「試作（一）（二）」と合わせて「万葉植物歌絵帖」と同じ和歌を採用したものは七首、半数は「試作（一）（二）」と共通している。しかしながら同じ和歌であっても図様を変え、半数は別の和歌を引用し描いている。全体数を見ても「万葉植物歌絵帖」「試作（一）（二）」全一四四首（同じ和歌を除いた数）の和歌を二九九種の図様に、多様な表現、技法によって描き分ける。ある程度表現や構図にパターンを見ることはできるが、これだけの数の図様を描き分ける藤井の力には目を見張るものがあるだろう。

本作品群の制作年について

ここまで本作品群の概要と特徴について述べてきた。次にその中で生じた疑問点、中でも本作品群の制作年について触れておきたい。

先述のとおり、岡清蔵は昭和二十二（一九四七）年に藤井のアトリエで、万葉植物画巻（二十二巻）、万葉植物図（二百数十枚）を見た、と語っている。また山田光春は岡の言説を取り上げ、本作品群が昭和二十二（一九四七）年に出来上がったことに加え、そのうちの一枚を昭和二十二（一九四七）年の作として紹介している¹¹。

その一方で本作品群には二つの年代が記されている。「試作（二）」包紙には「萬葉植物歌絵帖試作（式）百八十三葉昭和二十二年春日」と書かれているが、「万葉植物歌絵帖」には「一六五、萬葉の植物絵 長田三和子氏蔵（別筆）昭和二十五年」というメモが同封されているのである。

このメモが別筆であることを考えると、昭和二十二年に描かれた作品を昭和二十五年に画冊に仕立てた、あるいは昭和二十五年に長田氏のもとへ渡ったということだろうか。現在所蔵している碧南市藤井達吉現代美術館では記載に則り「万葉植物歌絵帖」を伝一九五〇年、「試作（二）」を一九四七年の作としている。現段階では制作年を断定することは難しく、この点を明らかにするためには今後も調査を継続する必要があるだろう。

おわりに

本稿では「万葉植物歌絵帖」「万葉植物歌絵帖試作（一）」「万葉植物歌絵帖試作（二）」をそれぞれ詳しく見ていき、その全容と特色を探った。「万葉植物歌絵帖」「万葉植物歌絵帖試作（一）」「万葉植物歌絵帖試作（二）」はそれぞれ万葉集で詠われた和歌、題材となる植物、情景を描いた作品である。和紙に継紙、あるいは布などを組み合わせ、墨や彩色

に金銀箔、加えて螺鈿や漆で彩るなど多彩な表現を見ることができるといえる。それらが「万葉植物歌絵帖」全一三葉、「試作（二）」全一四二葉、「試作（二）」全一四四葉に描かれている。岡や山田の述べるように、相当な労力をかけた、藤井の力作である点は疑いがないと思われる。

一方で、先ほど挙げた制作年のように、本作品群を調査する中で生じた疑問点も幾つかある。例えば藤井達吉が本作品を制作する際に参照した万葉集の資料は何か、という点や山田光春が指摘する藤井の継色紙作品との関連などが挙げられる。

また本作品群とともに語られる「万葉植物歌画卷試作」も長田三和子・義男コレクションとして寄贈されている。こちらは現在計二〇巻を所蔵しているが、その全容を詳しく見ることで明らかになること、新たに考察すべきこともあるだろう。

藤井達吉の天平文化への関心、傾倒はしばしば指摘されている点でもある¹³。継色紙や「万葉集」で詠われる場所を取り上げた墨画に加え、「万葉植物歌絵帖」「万葉植物歌絵帖試作（一）」「万葉植物歌絵帖試作（二）」、そして「万葉植物歌画卷試作」などは藤井達吉の天平文化、中でも「万葉集」への高い関心を示す作例となる可能性を考えることができるかもしれない。

どちらにせよ性急な結論は避けるべきだが、ここで挙げられた疑問点は今後の課題として引き続き調査を進めていきたい。

（註）

- 1 長田三和子・義男コレクションの詳しい内訳等は『碧南市藤井達吉現代美術館年報 no.6』二〇二二年、に掲載されている。
- 2 碧南芸術文化振興会事務局編「藤井先生直筆の訂正による碧南市史料（第十一輯）藤井達吉翁」二〇〇三年、三頁。なお本資料には、前身となる『碧南市史料第十一輯「藤井達吉翁」』が一九五六年に発行されている。同書七頁にも記載がある。
- 3 前掲註2、一〇頁。なお一九五六年発行の『碧南市史料第十一輯「藤井達吉翁」』には碧南市の道場山へ移住した旨が書かれるが、訂正版には「知友のすゝめによりて」と訂正がなされている。
- 4 中根仙吉「藤井達吉先生」一九七五年、碧南市棚尾小学校、三三頁
- 5 松尾信資編『孤高の芸術家 藤井達吉』一九六五年、一〇六頁
- 6 前掲註5、一〇六頁
- 7 山田光春「藤井達吉の生涯」一九七四年、二七九頁
- 8 前掲註7、二八〇頁
- 9 前掲註7、二七九頁
- 10 該当する和歌は、久保田淳監修・稲岡浩二著『和歌文学大系 4 万葉集（四）』二〇一五年、にて確認した。
- 11 前掲註7、二七九頁
- 12 前掲註5、一〇六頁、前掲註7、二七九頁。なおそれぞれ「万葉植物画卷（二十二巻）」、「万葉和歌植物絵巻」と記されている。碧南市藤井達吉現代美術館では「万葉植物歌画卷試作」として所蔵されている。名称は異なるが、「万葉和歌植物絵巻」は試作が二一巻現

存するという記載（現在同館では全二〇巻を確認所蔵している）点、「万葉植物歌絵帖」「万葉植物歌絵帖試作（一）」「万葉植物歌絵帖試作（二）」同様の来歴や言説から、同じ作品を指している可能性は高いと思われる。

13 瀬尾典昭「藤井達吉の立つ場所―展覧会にあたって」『藤井達吉の全貌―野に咲く工芸・宙を見る絵画』二〇一三年、株式会社キュレィターズ、一七頁や同書一四六頁など、特に工芸の視点から指摘されている。

（付記）本稿を成すにあたり、文字の読み下しについては、碧南市文化財課日置麻里氏に、藤井達吉の技法については碧南市文化財課稲垣尚人氏にご助言いただきました。ここに記して感謝申し上げます。

頁数	画像	材質技法	題材の植物	歌（読み下し）	作者及び所収巻	備考
11		紙本彩色、金銀箔、墨書	萱草（忘れ草）	萱草／吾紐爾著／時常無／念度者／生跡文／奈思 萱草／吾が紐につく／時と無く／思いわたれば／生けりとも／なし	作者不詳 （巻12－3060）	
12		紙本彩色、金銀箔、継紙	桜	足非奇乃／山桜花／日並而／如是開有／ 者甚戀日夜裳 あしひきの／山桜花／日並べて／かく咲きたら／ばいたく戀ひやめも	山部赤人 （巻8－1425）	※2
13		紙本彩色、金銀箔、継紙、墨書	思い草（南蛮煙管）	道邊之／乎花我／下之／思草／今更爾／何可／将念 道の辺の／お（尾）花が／下の／思ひ草／今更さらに／何をか思はむ	作者不詳 （巻10－2270）	

読み下しは上段にくずし字の読み下し、その下に現代仮名遣いを記した。

備考欄 ※1は和歌の一部のみを書いたものを示す。和歌の前後は太字にて補足した。

※2は文字の記載が確認できない部分のあったものを示す。それらは該当する句を、久保田淳監修・稲岡浩二著『和歌文学大系1 萬葉集（一）』一九九七年、『和歌文学大系2 萬葉集（二）』二〇〇二年、『和歌文学大系3 萬葉集（三）』二〇〇六年、『和歌文学大系4 萬葉集（四）』二〇一五年より確認し太字にて補足した。

表1 「万葉植物歌絵帖」一覧

頁数	画像	材質技法	題材の植物	歌（読み下し）	作者及び所収巻	備考
1		紙本彩色、金銀箔、継紙、墨書	さなかずら	玉匣／見圓山乃／狭名萬／佐不寐者／遂爾／有勝麻布之自 玉櫛笥（たまくしげ）／みむろの山の／さな葛（かずら）／さ寝ずは／遂に／有りかつましじ	藤原鎌足 （巻2－94）	
2		紙本彩色、金箔	銀杏	知智乃實能／父／能／美／許／等／波播蘇葉乃／母能美己等／於保呂可尔／情盡而／念良牟／其子奈礼夜母／大夫夜（无）奈之久可在／梓弓／須惠布理於許之／投矢毛知／千尋射和多之／劔刀／許思尔等理波伎／安之比奇能／八峯布美越／左之麻久流／情不障／後代乃／可多利都具倍久／名乎多都倍志母 ちちの実の／父の／いの／ち／ははそ葉の／母の命／おほろかに／心尽して／思ふらむ／その子なれやも／大夫や／空しくあるべき／梓弓／木振り起し／投矢持ち／千尋射わたし／劔大刀／腰に取り佩き／あしひきの／八つ峰踏み越え／さしまくる／心障らず／後の世の／語り継ぐべく／名を立つべしも	大伴家持 （巻19－4164）	※1
3		紙本淡彩、墨書	ももよ草	父母我／等能能／志利弊乃／母母余具佐／母母與／伊豆／麻勢／和我／技多流麻豆 父母が／殿の／後方（しりへ）の／ももよ草／百代（ももよ）／いて／ませ／我が／来たるまで	生玉部足國 （巻20－4326）	
4		紙本、金銀箔泥、継紙	松	白鳥能／飛羽山松之／待乍曾／吾戀度／此月比乎 白鳥の／飛羽山（とばやま）松の／待ちつつそ／吾（わが）恋度（こいわたる）／この月ごろを	笠女郎 （巻4－588）	
5		紙本、金銀箔、継紙、布、墨書	真木（杉・ひのき類の総称）	眞木乃於爾／靈置有雪乃／数布毛／所念可聞／左夜間／吾背 真木の上に／降り置ける雪の／しくしくも／思ほゆるかも／さ夜間へ／吾が背	他田広津娘子 （巻8－1659）	
6		紙本彩色、金銀箔、墨書	朴	皇祖神乃／遠御代／三世／波射布折／酒飲等伊布曾／此／保實我之波 皇祖（すめろき）の／遠御代／御代／はい重き折り／酒飲みきといふぞ／この／ほほがしは	大伴家持 （巻19－4205）	
7		紺紙彩色、金銀箔	めはじき／つくばね草	吾屋前爾／生土針／従心毛／不想人之／衣爾／須良由奈 吾がやどに／生ふる土針／心ゆも／思はぬ人の／衣に／摺らゆな	作者不詳 （巻7－1338）	
8		紙本彩色、金泥、墨書	桜	安之比奇能／夜麻佐久良／婆な／比等目太尔／伎美等之／見□□婆／安礼／古非米／夜母 あしひきの／山桜／花／一目だに／君とし／ 見てれば ／あれ／こひ（恋）め／やも	大伴家持 （巻17－3970）	※2
9		紙本彩色、金箔、墨書	馬酔木	伊蘇可氣乃／美由流／伊□／□□／□流麻□尔／左家流／□之婢乃／知麻良久／乎思母 磯影の／見ゆる／いけ／みづ／てるまでに／さける／ あしびの ／ちらまく／おしも	甘南備伊香 （巻20－4513）	※2
10		紙本、継紙、銀箔、金泥	緋扇（ぬばたまは緋扇の実）	烏珠之／其夜乃／梅乎／手忘□／不折／来／家／里／思之／物乎 烏珠（ぬばたま）の／其の夜の／梅を／た忘れて／折らず／来に／け／り／思ひしものを	大伴百代 （巻3－392）	

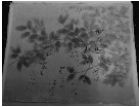
通し番号	画像	材質技法	題材・詠まれるの植物	歌（読み下し）	作者及び所収巻	備考
1－9		紙本彩色、金銀箔、金泥	えぐ （くろぐわい）	為君／山田之澤／恵具探跡／雪消之水尔 ／裳裾／所沾 君がため／山田の沢に／ゑぐつむと／雪消の水に／裳の裾濡れぬ	作者不詳 （巻10－1839）	※1 ※3
1－10		紙本彩色、金銀箔	野蒜	霽酢爾／蒜都伎合而／鯛願／吾尔勿／所見 ／水葱乃／煮物 霽酢に／蒜搗きかてて／鯛願ふ／我れにな ／見えそ／水葱の／羹	長意吉麻呂 （巻16－3829）	※3
1－11		紙本彩色、金銀箔	なよ竹	秋山／下部留妹／奈用竹乃／騰遠依／子等者 ／何方尔／念居可／栲繼之／長命乎 ／露己曾婆／朝尔置而／夕者／消等言 ／露己曾婆／夕立而／明者／失等言／梓弓 ／音聞吾母／髣髴見之 事悔歟乎／布栲乃 ／手枕纏而／劔刀／身二副寐價牟／若草 ／其孺子者／不怜弥可／念而寐良武 ／悔弥可／念戀良武／時不在／過去子等我 ／朝露乃如也／夕露乃如也 秋山の／下へる妹／なよ竹の／とをよる ／子らは／いかさまに／思ひ居れか／栲縄の ／長き命を／露こそば／朝に置きて ／夕は／消ゆといへ／露こそば／夕に立ちて ／朝は／失すといへ／梓弓／音聞く我れも ／おほに見し／こと悔しきを／敷栲の ／手枕まきて／劔太刀／身に添へ寝けむ ／若草の／その孺の子は／寂しみか ／思ひて寝らむ／悔しみか／思ひ恋ふらむ ／時ならず／過ぎにし子らが／朝露のごと ／夕露のごと	柿本人麻呂 （巻2－217）	※1 ※3
1－12		紙本墨画彩色、墨書	あじさい	あちさみ能／やへ伎久其奈久／屋川世にを ／い末勢古／見都し／しぬ／婆む あぢさみの／八重咲くごとく／八つ代にを ／いませ我が背子／見つつ／偲／はむ	橘諸兄 （巻20－4448）	
1－13		紙本墨画彩色、墨書	蓴菜 （じゅんさい）	我閑許ころ／遊堂尔太遊多に／雲於ぬ奈波 ／辺に毛たきに裳／与理閑都／萬し／を（じ） 吾が心／ゆたにたゆたに／浮蓴／辺にもたき にも／寄りかつ／ましじ	作者不詳 （巻7－1352）	※4
1－14		紙本墨画淡彩、墨書	山橘 （やぶこうじ）	許の遊起の／きへや類／東きに／い佐遊か 無／や萬堂ち／波那／美の／非可るも ／見武 この雪の／消残る／時に／いざ行かな ／山橘の／実の／照るも／見む	大伴家持 （巻19－4226）	※4
1－15		紙本墨画、墨書	笹	佐さの波盤／三や末も／散屋舟／美堂礼 東母／あ連盤いも／於も布／和か礼／岐ぬ 連は 笹の葉は／み山も／さやに／さやげども ／我れは妹／思ふ／別れ／来ぬれば	柿本人麻呂 （巻2－133）	※4
1－16		紙本墨画淡彩、墨書	まこも	萬許母か類／おほぬか波礼の／美許母理 尔／許悲来し／いもか／悲母／東久／あ礼 者 ま薦刈る／大野川原の／水隠りに／恋ひ来 し／妹が／紐／解く／我れは	作者不詳 （巻11－2703）	

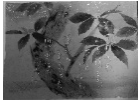
表2 「万葉植物歌絵帖試作（一）」一覧

通し番号	画像	材質技法	題材・詠まれるの植物	歌（読み下し）	作者及び所収巻	備考
1－1		紙本彩色、金銀箔	百合	道邊之／草深由利乃／花咲爾／咲之柄二 ／妻常／可云也 道邊の／草深ゆりの／花えみに／えみにし がからに／妻と／云うべしや	作者不詳 （巻7－1257）	
1－2		紙本彩色、金銀箔	紅葉			和歌記載 無し
1－3		紙本彩色、墨書	ひのき	い尔之へに／あ李氣無／非東毛／和家許 止迦／みわ濃／比波羅に／閑さ之／於李計 牟 いにしへに／ありけむ／人も／我がごと か／三輪の／桧原に／かざし／おりけむ	柿本人麻呂 ／作者不詳 （巻7－1118）	
1－4		紙本墨画彩色、金銀箔	蓴菜 （じゅんさい）	吾情／湯谷／絶谷／浮蓴／邊毛奥毛／依 勝／益士 吾が心／ゆたに／たゆたに／浮蓴／辺にも 沖にも／寄りかつ／ましじ	作者不詳 （巻7－1352）	
1－5		紺地彩色金箔、螺鈿	苧麻（蒸）	あた乎良乎／遠家爾／布須／左尔／宇麻 受登毛／安須伎西／佐米／也／伊射西乎 ／騰許尔 麻苧を／おけに／ふす／さに／つまずとも ／明日きさせ／さめや／いざせを／どこに	作者不詳 （巻14－3484）	※3
1－6		紙本彩色、墨書、金銀箔	つぎね（一人静）	次嶺經／山背道乎／人都末乃／馬從行乎 ／已夫之／歩從行者／每見／哭耳之所泣 ／曾許思尔／心之痛之／垂乳根乃／母之 形見跡／吾持有／真十見鏡尔／蜻領巾 ／負並持而／馬替吾背 つぎねふ／山背道を／人夫の／馬より行く に／已夫し／徒歩より行けば／見るごと くに／音のみし泣かゆ／そ思ふに／心し 痛し／たらちねの／母が形見と／我が持 てる／まそみ鏡に／蜻蛉領巾／負ひ並め 持ちて／馬買へ我が背	作者不詳 （巻13－3314）	※1
1－7		紙本彩色か	梅	波流能努爾／奈久夜汗閑比須／奈都氣午 得／和可弊能／曾能爾／汗米何／波奈佐 久 春の野に／鳴くや鶯／なつけむと／我が 家の／園に／梅が／花咲く	志紀 （巻8－837）	
1－8		色紙金泥	蓬	於保支見能／末支能末尔々々／等里毛知 □／都可布流久尔能／年内能／許登可多 祢母知／多末保許能／美知尔伊天多知 ／伊波祢布美／也末古衣野由支／弥夜故 敵尔／末為之和我世乎／安良多末乃／等 之由吉我弊理／月可佐祢／美奴日佐末 祢美／故敷流曾良／夜須久之安良祢波 ／保止止支須／支奈久／五月能／あ夜女 ／具佐／余母疑／可豆／良伎／左加美都 伎／あ蘇／比奈／具礼止 大君の／まきのまにまに／取り持ちて ／仕ふる国の／年内の／事かたね持ち ／玉銚の／道に出で立ち／岩根ふみ ／山越え野行き／みやこへに／参みし 我が背を／あらたまの／年行き返り ／月かさね／見ぬ日さまねみ ／恋ふるそら／安くしあらねば ／ほととぎす／来鳴く／五月の ／あやめ／ぐさ／蓬／かつ／らき ／酒みづき／あそ／ひな／ぐれと ／射水河／雪消溢りて ／逝く水の／いやしにのみ ／鶴が鳴く ／奈良江のすげの ／ねもころに ／思ひ結ばれ ／嘆きつつ ／我が待つ君が ／事終り ／帰りまかりて ／夏の野の ／さ百合の花の ／花笑みに ／にふぶに笑みて ／逢はしたる ／今日をはじめて ／鎮なす ／かくし常見む ／面変りせず	大伴家持 （巻18－4116）	※1

通し番号	画像	材質技法	題材・詠まれるの植物	歌（読み下し）	作者及び所収巻	備考
1－23		黒地金泥	稲	あ羅き堂の／之し田能／い祢を／久羅に 許めて／阿難ひ祢／非祢し／あ賀／許布 ／羅久／盤 あらし田の／鹿猪田の／稲を／倉に上げ て／あなひね／ひねし／我が／恋ふ／ら く／は	忌部黒麻呂 （巻16－3848）	※4
1－24		紙本墨書、漉込	けやき	あ万東布や／かるのや之／ろの／都き都 起／い久与万て／あ良む／許も里／川萬 と母 天飛ぶや／軽の／社の／斎ひ槻／幾代ま で／あらむ／隠り／妻ぞも	作者不詳 （巻11－2656）	※4
1－25		紙本淡彩墨画、 銀箔、色紙	露草	徒き久さに／許ろ母／へろ登李／加波良 布東／い布東／久留之散 月草に／衣／色とり／摺らめども／うつ ろふ／色と／言ふが／苦しさ	作者不詳 （巻7－1339）	※4
1－26		黒地彩色	馬酔木	伊曾閑氣能／見遊留／い計美須／伝留末 天に／散計流／あ之非の／ち良久／於 之裳 磯影の／見ゆる／池水／照るまでに／咲 ける／馬酔木の／散らまく／惜しも	甘南備伊香 （巻20－4513）	
1－27		紙本彩色、金箔	かきつばた	あれ能や／可久許盤／春羅む／閑き都婆 堂／尔川羅布／い裳者／伊可尔／かる良 牟 我れのみや／かく恋／すらむ／かきつは た／丹つらふ／妹は／いかに／かあるら む	作者不詳 （巻10－1986）	※4
1－28		紙本墨画金泥、 墨書	女郎花	於美奈へ之／佐起佐波のへの／萬久春波 良／い川可母／久李伝／あ賀／来呂裳に ／き牟 をみなへし／佐紀沢の辺の／真葛原／い つかも／繰りて／我が／衣に／着む	作者不詳 （巻7－1346）	
1－29		紙本彩色銀箔、 墨書、漉込	蓼	和久古登も／久さはな／可利そ／や本多 てを／ほ都美の／あそ閑／和起久さを／ 可礼 童ども／草はな／刈りそ／八穂蓼を／穂 積の／朝臣が／腋草を／刈れ	平群広成 （巻16－3842）	※4
1－30		紙本墨画淡彩か	百合	登裳之比能／悲可理尔見遊る／散遊り／ 波奈／遊李母／あ波牟東／於裳ひ曾め尔 起／ 灯火の／光りに見ゆる／さ百合／花／ゆ りも／逢はむと／思ひそめてき	内蔵縄麻呂 （巻18－4087）	
1－31		紙本墨画淡彩、 墨書	緋扇 （ぬばたまは緋扇 の実）	ぬばたまの／久呂可美／や万の／や末春 氣に／已散免／布理／之久／之久／志具 ／おも本遊 ぬばたまの／黒髪山の／山菅に／小雨／ 降り／しき／しく／しく／思／ほゆ	作者不詳 （巻11－2456）	

通し番号	画像	材質技法	題材・詠まれるの植物	歌（読み下し）	作者及び所収巻	備考
1－17		紙本墨画、墨書	緋扇 （ぬばたまは緋扇 の実）	努婆堂萬能／久呂かみや末の／屋万春け に／古さ面／布李／志岐／之久／志具／ おも／本遊 ぬばたまの／黒髪山の／山菅に／小雨／ 降り／しき／しく／しく／思／ほゆ	作者不詳 （巻11－2456）	
1－18		紺地金泥	藻	おき川な美／へ都裳／末きもち／預努久 堂も／き美に／萬さ礼る／堂末／与勢面 ／や母（一云 沖津浪 邊浪）布敷 縁来登 母） 沖つ波／辺つ藻／巻き持ち／寄せ来とも ／君に／まされる／玉／寄せめ／やも（一 云 沖つ波辺波しくしく寄せ来とも）	作者不詳 （巻7－1206）	※4
1－19		紙本墨画淡彩、 墨書	梅	宇面の波奈／お理閑散し／つつ／も呂飛 東の／あ曾布遠／見礼盤／美や許のお／ もふ 梅の花／折りかざし／つつ／諸人の／遊 ぶを／見れば／都しぞ／思ふ	土師水通 （土師御道） （巻5－843）	
1－20		紙本墨画淡彩金泥、 墨書	あしつき	於迦美か波／久礼奈ゐ／尔保布／遠東め 羅し／あ之川き／東ると／勢尔堂た須／ 羅之 雄神川／紅／にほふ／娘子らし／葦付／ 取ると／瀬に立たす／らし	大伴家持 （巻17－4021）	
1－21		紙本墨画淡彩、 金泥銀箔、墨書	浜木綿 （はまおもと）	三久萬ぬ能／有羅の／波末遊希／ももへ 奈春／許ころ盤／もへ東／堂たに／あ波 ぬ閑裳 み熊野の／浦の／浜木綿／百重なす／心 は／思へど／直に／逢はぬかも	柿本人麻呂 （巻4－496）	
1－22		紙本彩色、墨書	蓬	於保支見能／未支能未尔々々／等里毛知 □／都可布流久尔能／年内能／許登可多 祢母知／多末保許能／美知尔伊天多知／ 伊波祢布美／也末古衣野由支／弥夜故敵 尔／未為之和我世乎／安良多末乃／等之 由吉我弊理／月可佐祢／美奴日佐末祢美 ／故敷流曾良／夜須久之安良祢波／保 止々支須／支奈久／五月能／安夜女／具 佐／余母疑／可豆良伎／左加美都伎／安 蘇比奈具礼止／射水河／雪消溢而／逆水 能／伊夜未思尔乃末／多豆我奈久／奈呉 江能須氣能／恨毛己呂尔／於母比牟須保 礼／奈介伎都々／安我末（川）君我／許 登乎波里／可敵利未可利天／夏野能／佐 由里能波奈能／花咲尔／々布夫尔惠美天 ／阿波之多流／今日乎波自米□／鏡奈須 ／可久之都祢見牟／於毛我波利世須 大君の 任きのまにまに 取り持ちて 仕ふ る国の 年の内の 事かたね持ち 玉梓の 道に出で立ち 岩根踏み 山越え野行き 都辺に 参みし我が背を あらたまの 年行 き返り 月重ね 見ぬ日さまねみ 恋ふるそ ら 安くしあらねば 霍公鳥 来鳴く五月 の あやめぐさ 蓬かづらき 酒みづき 遊 びなぐれど 射水川 雪消溢りて 行く水の いや増しにのみ 鶴が鳴く 奈呉江の菅の ねもころに 思ひ結ばれ 嘆きつつ 我が待 つ君が 事終り 帰り罷りて 夏の野の さ 百合の花の 花笑みに にふぶに笑みて 逢 はしたる 今日を始めて 鏡なす かくし常 見む 面変りせず	大伴家持 （巻18－4116）	※1

通し番号	画像	材質技法	題材・詠まれるの植物	歌（読み下し）	作者及び所収巻	備考
1－36		紙本墨画墨書	ちさ（エゴノキ）	於保奈牟知／須久奈比古奈野／神代欲里 ／伊比都藝家良〈久〉父母乎／見波多布 刀久／妻子見波／可奈之久米具之／宇都 世美能／余乃許等和利止／可久佐末尔／ 伊比家流物能乎／世の悲東の／堂川類／ 古登たち／ち佐の／波奈／散氣留／さ閑 理尔／波之吉余之／曾能都末能古等／安 沙余比尔／恵美々恵末須毛／宇知奈氣支 ／可多里家末久波／等己之部尔／可久之 母安良米也／天地能／可末許等余勢天／ 春花能／佐可里裳安良〈牟等〉／〈末〉多 之家牟／等吉能沙加利曾／波〈奈礼〉居 亓／奈介可須移母我／何時可毛／都可比 能許牟等／末多須良〈无〉心左夫之苦／ 南吹／雪消益而／射水河／流水沫能／余 留弊奈美／左夫流其兒尔／比毛能緒能／ 移都我利安比亓／尔保騰里能／布多理雙 坐／那呉能宇美能／於支乎布可米天／左 度波世流／支美我許己呂能／須敵母須敵 奈佐 大汝／少彦名の／神代より／言ひ継ぎけ らく／父母を／見れば貴く／妻子見れば ／かなしくめぐし／うつせみの／世のこ とわりと／かくさまに／言ひけるものを ／世の人の／立つる／言立て／ちさの／ 花／咲ける／盛りに／はしきよし／その 妻の子と／朝夕に／笑みみ笑ますも／う ち嘆き／語りけまは／とこしへに／か くしもあらめや／天地の／神言寄せて／ 春花の／盛りもあらむと／待たしけむ／ 時の盛りぞ／離れ居て／嘆かす妹が／い つしかも／使の来むと／待たすらむ／心 寂しく／南風吹き／雪消溢りて／射水川 ／流る水沫の／寄る辺なみ／左夫流その 子に／紐の緒の／いつがり合ひて／には 鳥の／ふたり並び居／奈呉の海の／奥を 深めて／さどはせる／君が心の／すべも すべなさ	大伴家持 （巻18－4106）	※1
1－37		紙本彩色、墨書	いちし？	美ち能への／以ち之の／波那の／い遅し 呂久／悲東美奈／し理ぬ／和賀／許布留 ／都萬 道の辺の／いちしの／花の／いちしろく ／人皆／知りぬ／我が／恋妻は〔或本歌 曰 いちしろく人知りにけり継ぎてし思 へば〕	作者不詳 （巻11－2480）	
1－38		紙本彩色金箔、 墨書	葦	忘金鶴／從蘆邊満来／塩乃／弥益荷／念 歟／君之 從蘆邊満来／塩乃／弥益荷／念歟／君之 ／忘金鶴	山口女王 （巻4－617）	※4 歌の順番 が異なる
1－39		紙本彩色、金泥	尾花、茅など	金野乃／美草苺草／屋杼禮里之／兎道乃 ／宮子能／借五百織／所念 秋の野の／み草刈り葺き／宿れりし／宇 治の／宮処の／仮廬し／思ほゆ	額田王 （巻1－7）	※3
1－40		紙本彩色、金銀箔、 墨書	なでしこ	石竹之／其花鬪毛我／朝旦／手取持而／ 戀日将無 なでしこが／その花にもが／朝な朝な／ 手に取り持ちて／恋ひぬ日なけむ	大伴家持 （巻3－408）	

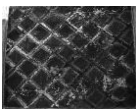
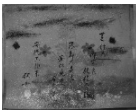
通し番号	画像	材質技法	題材・詠まれるの植物	歌（読み下し）	作者及び所収巻	備考
1－32		紙本墨画淡彩、 金泥銀箔、墨書	櫓	美閑利春類／か李波のをぬの／奈良／之 波の／奈礼盤／萬散羅春／許悲許尔／末 散礼 み狩りする／雁羽の小野の／櫓／柴の／ なれば／まさらず／恋こそ／まされ	作者不詳 （巻12－3048）	
1－33		紙本墨画淡彩、 漉込、墨書	紅葉	和閑や堂に／も美川／可へ流て／見留来 と／以毛を／可希都つ／許非ぬ／日波な 志 我が宿に／もみつ／蝦手／見るごとに／ 妹を／懸けつつ／恋ひぬ／日はなし	作者不詳 （巻8－1623）	
1－34		紙本墨画淡彩、 漉込、墨書	櫓の実	春礼留／きぬ／幾伝／志幾亓留／閑堂あ 波可波能／佐尔ぬ里能／於於波之／の／ へ由久／久礼奈る能／あ可も春所／非き ／や万ある／も知 しな照る／片足羽川の／さ丹塗りの／大 橋／の／上ゆ／紅の／赤裳櫓／引き／山 藍／もち／摺れる／衣／着て／ただ独り ／い渡らす子は／若草の／夫かあるらむ ／櫓の実の／独りが寝らむ／間はまくの ／欲しき我妹が／家の知らなく	高橋虫麻呂 （巻9－1742）	※1 ※4（歌 の順番が 異なる）
1－35		紙本墨画淡彩、 墨書	楡	忍照八／難波乃小江尔／廬作／難麻理亓 居／葦河尔乎／王召跡／何為牟尔／吾乎 召良米夜／明久／〈吾〉知事乎／歌人跡 ／和乎召良米夜／笛吹跡／和乎召良米夜 ／琴引跡／和乎召良米夜／彼〈此〉毛 〈命〉受牟跡／今日々々跡／飛鳥尔到／ 雖〈置〉／〈々〉勿尔到雖不策／都久怒尔 到／東／中門由／參納来亓／命受例婆／ 馬尔己曾／布毛太志可久物／牛尔己曾／ 鼻繩波久例／あ之非伎農／許能閑堂や万 の／母口尔礼を／いを枝／波きた理／天 光夜／日乃異尔干／佐比豆留夜／辛碓尔 春／庭立／〈手〉碓子尔春／忍光八／難 波乃小江乃／始垂乎／辛久垂来亓／陶人 乃／所作龜乎／今日往／明日取持来／吾 目良尔／塩と給／〈せ〉賞毛／ おしてるや／難波の小江に／廬作り／隠 りて居る／葦蟹を／大君召すと／何せむ に／我を召すらめや／明けく／我が知る ことを／歌人と／我を召すらめや／笛吹 きと／我を召すらめや／琴弾きと／我を 召すらめや／かかもくも／命受けむと／ 今日今日と／飛鳥に至り／置くとも／置 勿に至り／つかねども／都久野に至り／ 東の／中の御門ゆ／参入り来て／命受く れば／馬にこそ／ふもだしかくもの／牛 にこそ／鼻繩はくれ／あしひきの／この 片山の／波もむ楡を／五百枝／剥き垂り ／天照るや／日の異に干し／さひづるや ／天照るや／日の異に干し／さひづるや ／韓臼に搗き／庭に立つ／手臼に搗き／ おしてるや／難波の小江の／初垂りを／ からく垂り来て／陶人の／作れる楡を／ 今日行きて／明日取り持ち来／我が目ら に／塩塗りたまひ／きたひはやすも／き たひはやすも	作者不詳 （巻16－3886）	※1

通し番号	画像	材質技法	題材・詠まれる植物	歌（読み下し）	作者及び所収巻	備考
1－50		紙本墨画金泥、墨書	柳	久堅之／天原從／生来／神之命／お久や 万の／佐かきの／恵堂に／之羅駕つ計／ 遊布／と理／都氣伝／齊戸乎／忌穿居／ 竹玉乎／繁尔貫垂／十六自物／膝折伏／ 手弱女之／押日取懸／如此谷裳／吾者 〈折〉奈牟／君尔不相可聞 ひさかたの 天の原より 生れ来る 神の命 ／奥山の／賢木の／枝に／しらか付け／ 木綿／取り／付けて／斎瓮を／斎ひ掘り 掘糸／竹玉を／繁に貫き垂れ／獣じもの ／膝折り伏して／たわや女の／襲取り懸 け／かくだにも／我れは折ひなむ／君に 逢はしかも	坂上郎女 （巻3－379）	※1
1－51		紙本墨画金泥、墨書	かたくり	ものの布の／や曾を東め羅駕／萬可布／ て羅みの／うへの／か多閑古の／波奈 もののふの／八十娘子らが／汲み乱ふ／ 寺井の／上の／堅香子の／花	大伴家持 （巻19－4143）	※4
1－52		紙本彩色、漉込、墨書	べにばな	裳の川悲の／閑之許起／久尔所／久禮奈 ゐ能／以呂に奈／い伝所／於もひ／之ぬ 登裳 言ふ言の／畏き／国ぞ／紅の／色にな／ 出でそ／思ひ／死ぬとも	坂上郎女 （巻4－683）	※4
1－53		紙本墨画彩色、墨書	柳	久堅之／天原從／生来／神之命／於久や 萬の／佐閑岐農／恵堂に／由布／東理／ 川気轉／齊戸乎／忌穿居／竹玉乎／繁尔 貫垂／十六自物／膝折伏／手弱女之／押 日取懸／如此谷裳／吾者〈折〉奈牟／君 尔不相可聞 ひさかたの／天の原より／生れ来る／神 の命／奥山の／賢木の／枝に／しらか付 け／木綿／取り／付けて／斎瓮を／斎ひ 掘り掘糸／竹玉を／繁に貫き垂れ／獣じ もの／膝折り伏して／たわや女の／襲取 り懸け／かくだにも／我れは折ひなむ／ 君に逢はしかも	坂上郎女 （巻3－379）	※1
1－54		紙本彩色、漉込、墨書	ひし	幾美可堂免／雲起ぬのい氣に／悲之都牟 東／あ賀／そめし／そ伝／ぬ礼に／け類 閑裳 君がため／浮沼の池の／菱摘むと／我が ／染めし／袖／濡れに／けるかも	柿本人麻呂 （巻7－1249）	※4
1－55		紙本墨画淡彩、墨書	桂	武閑都於可の／和可か都羅の／木／し川 枝と理／波奈い末に／那気岐／都留か裳 向つ峰の／若桂の／木／下枝取り／花待 つい間に／嘆き／つるかも	作者不詳 （巻7－1359）	※4
1－56		紙本墨画、金銀箔、継紙、墨書	蓮	久堅之／雨毛落奴可／蓮荷爾／淳在水乃 ／玉爾似有／将見 ひさかたの／雨も降らぬか／蓮葉に／溜 まれる水の／玉に似たる／見む	作者不詳 （巻16－3837）	
1－57		紙本彩色、金銀箔、墨書	にわとこ （山たづ）	君之行／氣長久成ぬ／山多豆乃／迎乎／ 将往／待爾者／不待 君が行き／日長くなりぬ／山たづの／迎 へを／行かむ／待つには／待たじ	磐姫皇后 （巻2－90）	※3
1－58		紙本墨画墨書	榎	和賀可東の／之の美もとり波盤／ももち 登理／ち東り／は／来礼と母／幾美波／ きまさ美 我が門の／榎の実もり食む／百千鳥／千 鳥／は来れと／君ぞ／来まさぬ	作者不詳 （巻16－3872）	※4

通し番号	画像	材質技法	題材・詠まれる植物	歌（読み下し）	作者及び所収巻	備考
1－41		紙本彩色、金泥、金銀箔、墨書	緋扇 （ぬばたまは緋扇 の実）	鳥玉／黒髪山／山草／小雨／零敷／益／ □□／将思 ぬばたまの／黒髪山の／山菅に／小雨／ 降りしき／しくしく／思ほゆ	作者不詳 （巻11－2456）	※2 ※3
1－42		布本彩色金銀箔、ろうけつ染め	やますげ	佐久波奈波／宇都呂布／等伎／安里／安 之比奇乃／夜麻須我／乃祢之／奈我久波 ／安里／家里 咲く花は／移ろふ／時／あり／あしひき の／山菅／の根し／長くは／あり／けり	大伴家持 （巻20－4484）	シダの形 のスタン プを利用 したろう けつ染め
1－43		紙本彩色、金銀箔、墨書	つつじ	山越而／遠津之濱乃／石管自／返来／含 而／有待 山越えて／遠津の浜の／岩つつじ／我が ／来るまでに／ふふみて／あり待て	作者不詳 （巻7－1188）	※3 ※4 墨流し
1－44		紙本彩色、金銀箔、墨書	すみれ	宿二来／春野爾／須美礼／採尔等／来師 ／吾曾／野尔／奈都可之美／一夜 春の野に／すみれ／摘みにと／来し／我 れぞ／野を／なつかしみ／一夜／寝にけ る	山部赤人 （巻8－1424）	※4（歌 の順番が 異なる）
1－45		紙本彩色金銀泥、金銀箔	麻	庭立／麻乎刈干／布褌／東女／忘賜名 庭に立つ／麻手刈り干し／布褌す／東女 を／忘れたまふな	常陸娘子 （巻4－521）	※3 ※4
1－46		紙本彩色金銀箔、墨書	檜	古爾／有險人母／如吾等架／彌和乃／檜 原爾／挿頭／折兼 いにしへに／ありけむ人も／我がごとか ／三輪の／松原に／かざし／折りけむ	柿本人麻呂 （巻7－1118）	
1－47		紙本彩色金銀箔、墨書	やどりぎ	あ之比奇能／夜麻能／許奴礼能／保與／ 等里天／可射之／都良／久／波／知等世 ／保久／等曾 あしひきの／山の／木末の／ほよ／取り て／かざし／つら／く／は／千年／寿く ／とぞ	大伴家持 （巻18－4136）	
1－48		紙本彩色、墨書	すすき、尾花	目類布／君之家有／波奈須為寸／穗出／ 秋乃／過良久／惜母 めづらしき／君が家なる／花すすき／穗 に出づる／秋の／過ぐらく／惜しも	石川広成 （巻8－1601）	
1－49		紙本墨画	櫃の実	級照／片足羽河之／左丹塗／大橋之上從 ／紅／赤裳〈數〉十引／山藍用〈措〉衣服 而／直獨／伊渡為兒者／和可久佐の／都 萬閑あ羅無／可しの／美能／悲東李／可 ／祢能年／問巻乃／欲我妹之／家乃不知 久 しな照る／片足羽川の／さ丹塗りの／大 橋の上ゆ／紅の／赤裳裾引き／山藍もち ／濡れる衣着て／ただ独り／い渡らず子 は／若草の／夫があるらむ／櫃の実の／ 独り／か／寝らむ／問はまくの／欲しき 我妹が／家の知らなく	高橋虫麻呂 （巻9－1742）	※1

通し番号	画像	材質技法	題材・詠まれるの植物	歌（読み下し）	作者及び所収巻	備考
1－70		紙本彩色、金銀箔、墨書	ひかげかづら、梅	足日本乃／夜麻之多日影／可豆良家流／ 宇倍尔也左良爾／梅乎之奴波牟 あしひきの／山下ひかげ／かづらける／ 上にやさらに／梅をしたのはむ	大伴家持 （巻19－4278）	
1－71		紙本彩色、金銀箔、墨書	空木	佐伯山／于花以之／哀我／鶯取而者／花 ／散／鞆 佐伯山／卯の花持ちし／愛しきが／手を し取りてば／花は／散る／とも	作者不詳 （巻7－1259）	
1－72		紙本墨画金泥、墨書	弓絃葉	あ東も蔽閑／阿自久萬／夜末の／由都類 波能／布布末流／登起／に／可勢布可春 可母 あと思へか／阿自久麻／山の／弓絃葉の ／ふふまる／時／に／風吹かずかも	作者不詳 （巻14－3572）	
1－73		紙本墨画淡彩、墨書	和海藻	都ぬ之末能／迫門乃／稚海藻／者／人之 共／荒有／之／可杼／吾共者／和海藻 角島の／瀬戸の／わかめ／は／人の共／ 荒かり／し／かど／我れとは／和海藻	作者不詳 （巻16－3871）	
1－74		紙本彩色銀箔、漉込、墨書	鶏頭	あ起佐連婆／う都も／勢牟東／あ閑末岐 し／迦羅ぬの／波奈遠／堂連か／都美／ 氣無 秋さらば／移しも／せむと／我が蒔きし ／韓藍の／花を／誰れか／摘み／けむ	作者不詳 （巻7－1362）	
1－75		紙本漆画、銀箔	朴	吾勢故我／捧而持流／保實我之母／安多 可毛／似加／青蓋 我が背子が／捧げて持てる／ほほがしは ／あたかも／似るか／青き蓋	恵行 （巻19－4204）	
1－76		紙本墨画、墨書	くろぐわい	き美が堂面／やま田能／散波尔／恵具都 武東／遊起計能／散波丹／裳の曾旦／ぬ 祢努 君がため／山田の／沢に／ゑぐ摘むと／ 雪消の／水に／裳の裾／濡れぬ	作者不詳 （巻10－1839）	※4
1－77		紙本墨画金泥、墨書	忘れ草	和春礼久散／和我／非母尔／都具／香具 や万濃／布理尔し／散東遠／和春礼牟可 ／堂面 忘れ草／我が／紐に／付く香具山の／古 りにし／里を／忘れむが／ため	大伴旅人 （巻3－334）	
1－78		紙本彩色、墨書	忘れ草	和春礼久散／和我非母尔／都具／可具や 万能／布理尔／し／散東／遠／和春礼牟 可／堂面 忘れ草／我が紐に／付く／香具山の／古 りにし／里／を／忘れむが／ため	大伴旅人 （巻3－334）	
1－79		黒地金泥	なでしこ	ぬへ見礼は／奈てし古の波奈／散岐尔／ 氣李／あ賀萬川／あき波／ちか都久／羅 し／裳 野辺見れば／なでしこの花／咲きにけり 我が待つ秋は近づくらしも	作者不詳 （巻10－1972）	※4
1－80		紙本墨画彩色金泥、墨書	すもも	和閑その、／すもも能はなか／尔はニ／ ち類／は堂礼の／以末堂／能古理堂類／ 可母 吾が園の／李の花か／庭に／散る／はだ れの／いまだ／残りたる／かも	大伴家持 （巻19－4140）	

通し番号	画像	材質技法	題材・詠まれるの植物	歌（読み下し）	作者及び所収巻	備考
1－59		紙本墨画墨書	瓜か	う理波め婆／許登も／於も保遊／久梨波 め盤／末之て志ぬ波由／い都古与李／来 堂之／もの曾／萬奈閑ひ／に／本奈可理 旦／や春い之／なさ禰 瓜食めば／子ども／思ほゆ／栗食めば／ まして愚はゆ／いづくより／来りし／も のぞ／まなかひ／に／もとなかかりて／ 安寐し／寝なさぬ	山上憶良 （巻5－802）	※4
1－60		紙本彩色墨書	せり	あ閑祢佐春／ひ類波堂々／比て／努波多 万能／餘留の／い登満に／都め流／勢理 許礼 あかねさす／昼は田賜びて／ぬばたまの ／夜の／いとまに／摘める／芹これ	橘諸兄（葛城王） （巻20－4455）	
1－61		紙本彩色金箔、墨書	露草	月草尔／衣曾染流／君之為／緑色衣／将 摺跡／念而 月草に／衣ぞ染むる／君がため／斑の衣 ／摺らむと思ひて	作者不詳 （巻7－1255）	
1－62		黒地金泥	赤芽柏か	ぬ婆堂萬の／夜の布氣／ぬ禮盤／悲散来 ／生布留／起餘起／可波羅に／ち東里／ 之婆留久 ぬばたまの／夜の更け／ゆけば／久木／ 生ふる／清き／川原に／千鳥／しば鳴く	山部赤人 （巻6－925）	※4
1－63		紙本墨画金泥、墨書	稗	う都堂尔母／悲ゑ波あ万／堂に／あ利東 ／いへ登／江羅へ之／あ礼曾／よ類／比 東理／ぬ類 打つ田には／稗はしま／た／ありと／ いへど／選えし／我れぞ／夜を／ひとり ／寝る	作者不詳 （巻11－2476）	※4
1－64		紙本彩色金泥金箔	玉掃	始春乃／波都祢乃／家布能／多麻婆波伎 ／手尔等流／可良尔／由良久多麻／能乎 初春の／初子の／今日の／玉帚／手に取 る／からに／揺らく玉／の緒	大伴家持 （巻20－4493）	※2
1－65		紙本彩色金銀箔、墨書	松	白浪乃／濱松之枝乃／手向草／幾代左右 ／二賀／年乃／經去良武 白波の／浜松が枝の／手向けぐさ／幾代 まで／にか／年の／経ぬらむ	川島皇子 （巻1－34）	
1－66		紙本彩色金銀箔、漉込、墨書	野蒜	醬酢爾／蒜都伎／合而／鯛願／吾尔勿／ 所見／水葱乃／煮物 醬酢に／蒜搗き／かてて／鯛願ふ／我れ にな／見えそ／水葱の／羹	長意吉麻呂 （巻16－3829）	
1－67		紙本彩色金銀箔、螺鈿、継紙、墨書	梓	梓弓／引津邊在／莫謂花／及採／不相／ 有目八方／勿謂／花 梓弓／引津の辺なる／なのりその花／摘 むまでに／逢はず／あらめやも／なのり その／花	柿本人麻呂 （巻7－1279）	
1－68		紙本彩色金泥金箔、継紙、墨書	竹	刺竹之／大宮人乃／家跡住／佐保能山乎 者／思哉／毛／君 さす竹の／大宮人の／家と住む／佐保の 山をば／思ふや／も／君	石川足人 （巻6－955）	
1－69		紙本彩色、金箔、墨書	萩	雁鳴之／来喧牟／日及／見乍将有／此芽 子原尔爾／雨勿零根 雁がねの／来鳴かむ／日まで／見つつあ らむ／この萩原に／雨な降りそね	作者不詳 （巻10－2097）	※4

通し番号	画像	材質技法	題材・詠まれる植物	歌（読み下し）	作者及び所収巻	備考
1－87		紙本彩色金銀箔、墨書	卯の花	夏野乃／繁兒丹開有／姫由理乃／不知所／戀者／苦物乎 夏の野の／茂みに咲ける／姫百合の／知らえぬ／恋は／苦しきものぞ	坂上郎女 （巻8－1500）	※3 ※4
1－88		紙本金泥金箔、墨書、箔押	忘れ草	萱草／吾紐二付／香具山乃／故去之／里／不忘之為／ 忘れ草／我が紐に付く／香具山の／古りにし／里を／忘れむがため	大伴旅人 （巻3－334）	
1－89		紙本墨画金泥金銀箔、墨書	萩	吾妹子駕／宿乃／秋萩／花与理盤／實奈り／て／許曾／恋萬佐利／鶏連 我妹子が／やどの／秋萩／花よりは／実になり／て／こそ／恋ひまさり／けれ	作者不詳 （巻7－1365）	※3
1－90		紙本彩色金泥金銀箔、墨書	山吹	夜麻夫枳波／比爾比爾／佐伎奴／宇流波之等／我毛布／伎美波／思久思久／於毛保由 山吹は／日に日に／咲きぬ／うるはしと／我が／思ふ／君は／しくしく／思ほゆ	大伴池主 （巻17－3974）	※3（別の歌のメモ・作者不詳（巻11-2786）が付属）
1－91		紙本墨画彩色金銀箔、墨書	松	茂岡爾／神佐備立面／栄有／千代／松樹／乃／歳乃／不知久 茂岡に／神さび立ちて／栄えたる／千代／松の木／の／年の／知らなく	紀鹿人 （巻6－990）	
1－92		紙本墨画彩色金銀箔、墨書	ひし	君為／浮沼池／菱採／我染袖／沾在／哉君がため／浮沼の池の／菱摘むと／我が染めし袖／濡れにける／かも	柿本人麻呂 （巻7－1249）	※3
1－93		紙本彩色金銀箔、墨書	八重葎	念人／将来跡／知者／八重六倉／覆庭尔／珠／布／益／乎 思ふ人／来むと／知りせば／八重葎／覆へる庭に／玉／敷／か／まし／を	作者不詳 （巻11－2824）	※3
1－94		紙本墨画彩色金泥金銀箔、墨書	梅	我何則能爾／宇米能波奈知流／比佐可多／阿米欲里／由伎能／那何列／久流／加／母 我が園に／梅の花散る／ひさかたの／天より／雪の／流れ／来る／か／も	大伴旅人 （巻5－822）	
1－95		紙本墨画彩色金銀箔、漉込	縄海苔	和多都美乃／於伎都奈／波能里／久流等伎／登／伊毛我／麻都良牟／月者／倍尔／都追 わたつみの／沖つ縄／海苔／来る時／と／妹が／待つらむ／月は／経に／つつ	作者不詳 （巻15－3663）	※2
1－96		紙本墨画彩色金銀箔、墨書、漉込	ねっこ草（翁草・ねじ花）	芝付乃／御宇良／佐伎奈流／根都古具佐／安比見受／安良婆／安礼古非米／夜母芝付の／御宇良／崎なる／ねっこ草／相見ず／あらば／我れ恋ひめ／やも	作者不詳 （巻14－3508）	葉を漉き込むか？

通し番号	画像	材質技法	題材・詠まれる植物	歌（読み下し）	作者及び所収巻	備考
1－81		紙本墨画金泥、墨書	蓬	於保支見能／末支能末尔々々／等里毛知□／都可布流久尔能／年内能／許登可多祢母知／多末保許能／美知尔伊天多知／伊波祢布美／也末古衣野由支／弥夜故敝尔／末為之和我世乎／安良多末乃／等之由吉我弊理／月可佐祢／美奴日佐末祢美／故敷流曾良／夜須久之安良祢波／ほ登東起春／幾奈久佐都起の／あやめ久さ／餘母岐／閑川羅／岐／佐閑美都伎／あ曾非／奈久礼／東射水河／雪消溢而／逝水能／伊夜末思尔乃未／多豆我奈久／奈呉江能須氣能／根毛己呂尔／於母比牟須保礼／奈介伎都々／安我末〈川〉君我／許登乎波里／可敝利末可利天／夏野能／佐由里能波奈能／花咲尔／々布夫尔惠美天／阿波之多流／今日乎波自米□／鎖奈須／可久之都祢見牟／於毛我波利世須大君の／任きのまにまに／取り持ちて／仕ふる国の／年の内の／事かたね持ち／玉梓の／道に出て立ち／岩根踏み／山越え野行き／都辺に／参みし我が背を／あらたまの／年行き返り 月重ね／見ぬ日さまねみ／恋ふるそら／安くしあらねば／ほととぎす／来鳴く五月の／あやめぐさ／蓬／かつら／き／酒みづき／遊び／なぐれ／ど／射水川／雪消溢りて／行く水の／いや増しにのみ／鶴が鳴く／奈呉江の菅の／ねもころに／思ひ結ばれ／嘆きつつ／我が待つ君が／事終り／歸り罷りて／夏の野の／さ百合の花の／花笑みに／にふぶに笑みて／逢はしたる／今日を始めて／鏡なす／かくし常見む／面変りせず	大伴家持 （巻18－4116）	※1
1－82		紙本墨画淡彩、墨書	柘	い尔之遍尔／波梨雲都／非東の／奈加理勢／婆／許農末裘／あ羅万之／川美の／え太波母 いにしへに／梁（やな）打つ／人の／なかりせ／ば／ここにも／あらまし／柘の／枝はも	若宮年魚麻呂 （巻3－387）	※4
1－83		黒地金泥	赤芽柏か	烏玉之／夜乃深去者／久木生留／清／河原爾／知鳥／數鳴 ぬばたまの／夜の更けゆけば／久木生ふる／清き／川原に／千鳥／しほ鳴く	山部赤人 （巻6－925）	※3
1－84		紙本彩色金銀箔、墨書	橘	橘乃／影履路乃／八衢爾／物乎曾／思／妹爾／不相而 橘の／蔭踏む道の／八衢に／物をぞ／思ふ／妹に／逢はずして	三方沙弥 （巻2－125）	
1－85		紙本彩色金泥、金銀箔、墨書	山吹	和我勢故我／夜度乃也麻夫伎／左吉旦／安良婆／也麻受可／歌波牟／伊夜登之能／波爾 我が背子が／宿の山吹／咲きて／あらば／やまず通はむ／いや年の／端に	大伴家持 （巻20－4303）	※3 ※4
1－86		黒地金泥	海藻	神風之／伊勢〈乃〉海之／朝奈伎尔／来依深海松／暮奈藝尔／来因俣海松／深海松乃／深目師／吾尔／俣海松乃／復／去反／都麻等不言登可聞／思保世流君 神風の／伊勢の海の／朝なぎに／来寄る深海松／タなぎに／来寄る俣海松／深海松の／深めし／我れを／俣海松の／また／行き歸り／妻と言はじとかも／思ほせる君	作者不詳 （巻13－3301）	※1 ※3

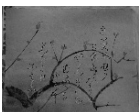
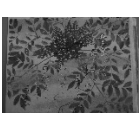
通し番号	画像	材質技法	題材・詠まれるの植物	歌（読み下し）	作者及び所収巻	備考
1－107		紙本彩色金銀箔、墨書	うはぎ（嫁菜）	春日野爾／煙立所見／□燭等四／春野之／菟芽子／採而煮／良思文 春日野に／煙立つ見ゆ／娘子らし／春野の／うはぎ／摘みて煮／らしも	作者不詳 （巻10－1879）	※2
1－108		紙本彩色、金泥、漉込、墨書	橘	此雪之／消遣時爾／去来師奈／山橘之／實光毛／将見 この雪の／消残る時に／いざ行かな／山橘の／実の照るも／見む	大伴家持 （巻19－4226）	葉を漉き込むか？
1－109		紙本彩色金泥金銀箔、墨書	檀	南洲之細川山立麻弓／末級人二不知所 南洲の細川山に立つ檀弓／束巻くまで人に知らえじ	作者不詳 （巻7－1330）	※3
1－110		紙本彩色金銀箔	堅香子	物部能／八木□燭等之／挹乱／寺井之於乃／堅香子之／花 もののふの／八十娘子らが／汲み乱ふ／寺井の上の／堅香子の／花	大伴家持 （巻19－4143）	
1－111		紙本彩色金銀箔、墨書、継紙	葦	從蘆邊／満米塩乃／弥益荷／念歎／君之／忘／金鶴 葦辺より／満ち来る潮の／いや増しに／思へか／君が／忘れ／かねつる	山口女王 （巻4－617）	
1－112		紙本彩色金銀箔、墨書	萩	高圓之／野邊秋／芽子／徒／開香／将／散／見人／無爾 高円の／野辺の秋／萩／いたづらに／咲きか／散るらむ／見る人／なしに	笠金村 （巻2－231）	
1－113		紙本彩色金銀箔泥、継紙	さわらび	石激／垂見之／上乃／左和良妣乃／毛要／出／春爾／成米鴨 石走る／垂水の／上の／さわらびの／萌え／出づる／春に／なりにけるかも	志貴皇子 （巻8－1418）	
1－114		紙本墨画彩色金銀箔、墨書	かきつばた	かき都橋多／衣爾須里都／麻須良雄乃／服曾比／狐／須／流／月／者／伎爾／け里 かきつばた／衣に摺り付け／大夫の／着襲ひ／狐／す／る／月／は／来に／けり	大伴家持 （巻17－3921）	※3
1－115		布本墨画彩色、墨書	藻	奥弊性／邊去／伊麻夜／為味／吾漁有／藻臥／束鮒 奥弊性／邊去／伊麻夜／為妹／吾漁有／藻臥／束鮒	高安王 （巻4－625）	
1－116		紙本彩色金銀箔、墨書	瓜か	宇利波米波／胡藤母／音母／保田／久利波米婆／麻斯提斯農波由／伊豆久欲利／枳多利斯物能曾／麻奈迦比尔／母等奈可 可利提／夜周伊斯奈佐農 瓜食めば／子ども／思／ほゆ／乗食めば／まして偲はゆ／いつくより／来りしものぞ／まなかひに／もとなかかりて／安寐し寝さぬ	山上憶良 （巻5－802）	※1

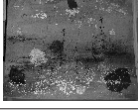
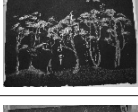
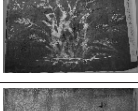
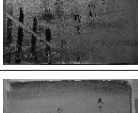
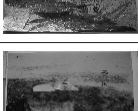
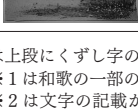
通し番号	画像	材質技法	題材・詠まれるの植物	歌（読み下し）	作者及び所収巻	備考
1－97		紙本彩色金銀箔、墨書、継紙	梅	宇梅能波奈／乎理加射之／都々／毛呂飛等能／阿蘇布遠／美礼婆／美夜古之／乎毛布 梅の花／折りかざし／つつ／諸人の／遊ぶを／見れば／都しぞ／思ふ	土師水通 （土師御道） （巻5－843）	※2
1－98		紙本墨画彩色金銀箔	梅	和何則能爾／宇米能／波奈知流／比佐可多能／阿米欲里／由伎能／那何列／久流／加母 我が園に／梅の／花散る／ひさかたの／天より／雪の／流れ／来る／かも	大伴旅人 （巻5－822）	※2
1－99		紙本彩色金銀箔	青菜	食薦敷／蔓菁／煮将来／樗爾／行膳懸而／息比公 食薦敷き／青菜／煮て来む／梁に／むかばき懸けて／休むこの君	長意吉麻呂 （巻16－3825）	
1－100		布本彩色金銀箔	杉	和我世古乎／夜麻登／敵／夜利旦／麻都之／太頭／安思我良／夜麻乃／須疑乃／木能／末可 我が背子を／大和／へ／遣りて／待つし／だす／足柄／山の／杉の／木の／間か	作者不詳 （巻14－3363）	
1－101		紙本彩色金泥金銀箔	桃花	春苑／紅爾保／桃花／下照／道爾／出立／□燭 春の園／紅にほふ／桃の花／下照る／道に／出で立つ／娘子	大伴家持 （巻19－4139）	※2
1－102		紙本彩色金箔、墨書、箔押	すすき	爾比牟路能／許騰伎爾／伊多禮婆／波太須酒伎／穂爾弓之／伎美我／見延奴／己能／許呂 新室の／とどきに／至れば／はだすすき／穂に出し／君が／見えぬ／この／ころ	作者不詳 （巻14－3506）	
1－103		紙本彩色金銀箔				文字判読不可
1－104		紙本彩色、継紙	ちさ（エゴノキ）	氣緒爾／念有吾乎／山治左能／花爾番／君之／移奴／良武 息の緒に／思へる我れを／山ぢさの／花にか／君がうつろひぬらむ	作者不詳 （巻7－1360）	※3 ※4
1－105		紙本金泥、漉込		伊麻欲里波／あ伎弓都／ぬ良思／比奇能／夜麻／末都／可／氣／尔／日具／良／之／奈伎奴 今よりは／秋づき／ぬらし／あしひきの／山／松／蔭に／ひぐ／ら／し／鳴きぬ	作者不詳 （巻15－3655）	※4
1－106		紙本彩色、漉込	櫃の実	級てる／片足羽河の／さ丹塗／大者之の上従／久礼奈ゐ／赤裳／〈數〉十引／山藍用〈措〉衣服而／直獨／伊渡為兒者／若草乃／夫香有良武／櫃實之／獨歟将宿 問巻乃／欲我妹之／家乃不知久しな照る／片足羽川の／さ丹塗りの／大橋の上ゆ／紅の／赤裳／裾引き／山藍もち／摺れる衣着て／ただ独り／い渡らず子は／若草の／夫があるらむ／櫃の実の／独り／か／覆らむ／問はまくの／欲しき我妹が／家の知らなく	高橋虫麻呂 （巻9－1742）	※1 ※3

通し番号	画像	材質技法	題材・詠まれる植物	歌（読み下し）	作者及び所収巻	備考
1－124		紙本彩色金銀箔、墨書	橘	霍公鳥／米鳴冷響／宇乃花能／共也来登 ／間麻思／物乎 霍公鳥／米鳴き響もす／卯の花の／伴に や来しと／間はまし／ものを	石上堅魚 （巻8－1472）	
1－125		紙本彩色墨画金銀箔、墨書	紅葉	大君の令悠み 秋律島大依／を過ぎて大 伴の三津の浜邊ゆ／大船に真かし子ぬき 朝風ル水手の聲しつたな梶／の音し つ行き之き美／いつ来万さむ東幣おきて 斎／ひわ堂る尔戯言や人の言／比都る我 が心筑紫の山の／黄葉の散り過ぎぬと君 ／賀堂閑遠 狂言や人の言ひつる玉の緒の長久東／君 は言ひてしもの遠 大君の命畏み 蜻蛉島大和／を過ぎて大 伴の御津の浜辺ゆ／大船に真楫しじ貫き 朝なぎに 水手の声しつたなぎに楫／ の音しつつ行きし君／いつ来まさむと占 置きて斎ひわたるにたはことか人の言ひ つる我が心筑紫の山の／黄葉の散りて過 ぎぬと君／が直香を たはことか人の言ひつる玉の緒の長くと ／君は言ひてしものを	作者不詳 （巻13－3333） 作者不詳 （巻13－3334）	2首の歌 が一つの 図で書か れる 3334は 3333へ の反歌
1－126		紙本墨画金泥金箔、墨書	藻	然之海人者／軍布苅／塩焼／無暇／髪梳 乃／小櫛／取毛／不見久爾 志賀の海女は／藻刈り／塩焼き／暇なみ ／櫛笥の／小櫛／取りも／見なくに	石川君子 （巻3－278）	※3
1－127		紙本彩色金泥金銀箔	秋の七草	芽之花／乎花／葛花／瞿麦之花／姫部志 ／又藤絵／朝兒之花 萩の花／尾花／葛花／なでしこの花／を みなへし／また藤袴／朝顔の花	山上憶良 （巻8－1538）	
1－128		紙本彩色金銀箔	八重葎	玉敷／家毛何將為／八重六倉／覆小屋毛 ／妹与居者 玉敷ける／家も何せむ／八重葎／覆へる 小屋も／妹と居りせば	作者不詳 （巻11－2825）	※3
1－129		紙本彩色金銀箔	わかめ	角嶋之／迫門之／推海藻者／人之共／荒 有之可抒／吾共者／和海藻 角島の／瀬戸の／わかめは／人の共／荒 かりしかど／我れとは／和海藻	作者不詳 （巻16－3871）	※2
1－130		紙本墨画彩色金泥金箔、墨書	秋の七草	朝貌之花 ／芽之花／乎花／葛花／瞿麦之 花／姫部志／又／藤絵／ 萩の花／尾花／葛花／なでしこの花／を みなへし／また藤袴／ 朝顔の花	山上憶良 （巻8－1538）	※4（歌 の順番が 異なる）
1－131		紙本彩色金銀箔、墨書	藻	美沙居／石轉尔生／名乗藻／乃／名者／ 告之旦余／親者／知友 みさご居る／磯廻に生ふる／なのりそ／ の／名は／告らしてよ／親は／知るとも	山部赤人 （巻3－362）	
1－132		紙本彩色金銀箔、墨書		山品之／石田乃小野乃／母蘇原／見乍哉 公之／山道／超良武 山科の／石田の小野の／ははそ原／見つ つか君が／山道／越ゆらむ	藤原宇合 （巻9－1730）	※3 箔押しか
1－133		紙本墨画彩色銀泥金銀箔、墨書	浜木綿	三熊野之／浦之濱木綿／百重成／心者／ 雖念／直／不相鴨 み熊野の／浦の浜木綿／百重なす／心は ／思へど／直に／逢はぬかも	柿本人麻呂 （巻4－496）	※3

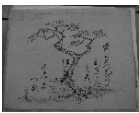
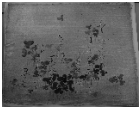
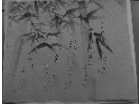
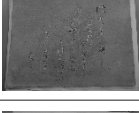
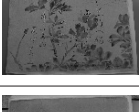
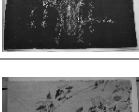
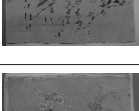
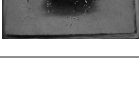
通し番号	画像	材質技法	題材・詠まれる植物	歌（読み下し）	作者及び所収巻	備考
1－117		紙本彩色金泥金銀箔、螺鈿、継紙	楡	忍照八／難波乃小江尔／廬作／難麻理呂 居／葦河尔乎／王召跡／何为牟尔／吾乎 召良米夜／明久／〈吾〉知事乎／歌人跡 ／和乎召良米夜／笛吹跡／和乎召良米夜 ／琴引跡／和乎召良米夜／彼く此〉毛／ 〈命〉受牟跡／今日々々跡／飛鳥尔到／ 雖〈置〉／〈々〉勿尔到／雖不策／都久怒 尔到／東／中門由／参納来呂／命受例婆 ／馬尔己曾／布毛太志可久物／牛尔己曾 ／鼻繩波久例／足引乃／此片山乃／毛武 尔禮乎／五百枝／波伎／垂／天光夜／日 乃異尔干／佐比豆留夜／辛碓尔春／庭立 ／〈手〉碓子尔春／忍光八／難波乃小江 乃／始垂乎／辛久垂来呂／陶人乃／所作 瓶乎／今日往／明日取持来／吾目良尔／ 塩柒給／〈腊〉賞毛／〈腊賞毛〉 おしてるや／難波の小江に／廬作り／隠 りて居る／葦蟹を／大君召すと／何せむ に／我を召すらめや／明けく／我が知る ことを／歌人と／我を召すらめや／笛吹 きと／我を召すらめや／琴弾きと／我を 召すらめや／かもかくも／命受けむと／ 今日今日と／飛鳥に至り／置くとも／置 勿に至り／つかねども／都久野に至り／ 東の／中の御門ゆ／参入り来て／命受く れば／馬にこそ／ふもだしかくもの／牛 にこそ／鼻繩はくれ／あしひきの／この 片山の／もむ楡を／五百枝／剥き／垂り ／天照るや／日の異に干し／さひづるや ／韓臼に搗き／庭に立つ／手臼に搗き／ おしてるや／難波の小江の／初垂りを／ からく垂り来て／陶人の／作れる瓶を／ 今日行きて／明日取り持ち来／我が目ら に／塩塗りたまひ／きたひはやすも／き たひはやすも	作者不詳 （巻16－3886）	※1
1－118		紙本墨画、墨書	むろ	吾妹子之／見師鞆浦之／天木香／樹／者 ／常世有跡／見之人曾／奈吉 我妹子が／見し鞆の浦の／むろの／木／ は／常世にあれど／見し人ぞ／なき	大伴旅人 （巻3－446）	※3
1－119		紺地彩色	槻	天飛也／輕乃／社之／齊槻／幾世／及／ 将有／隱嫗／其毛 天飛ふや／輕の／社の／斎り槻／幾代／ まで／あらむ／隠り妻／ぞも	作者不詳 （巻11－2656）	※2
1－120		紙本彩色金銀箔、墨書	橘	此雪之／消遺時爾／去来／師／奈／山橘 之／實／光／毛／将見 この雪の／消残る時に／いざ行かな／山 橘の／実の照るも／見む	大伴家持 （巻19－4226）	※3
1－121		紙本彩色金泥金銀箔	檜扇	居明而／君乎者／将待／奴婆珠乃／吾黒 髪尔／霜者零騰文 居明かして／君をば／待たむ／ぬばたま の／我が黒髪に／霜は降るとも	磐姫皇后 （巻2－89）	※3
1－122		布本彩色金箔、ろうけつ染め	山菅	奥山之／磐本菅乎／根深目手／結之／情 ／忘不／得裳 奥山の／岩本菅を／根深めて／結びし／ 心／忘れ／かねつも	笠郎女 （巻3－397）	シダの形 のスタン プを利用 したろう けつ染め
1－123		紙本彩色金泥金銀箔、墨書、漉込	藤	伊毛我伊弊爾／伊久理能／母里乃／藤花 ／伊麻許牟／春毛都禰／加久之／見牟 妹が家に／伊久里の／杜の／藤の花／今 来む／春も常／かくし／見む	玄勝 （巻17－3952）	

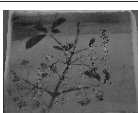
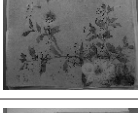
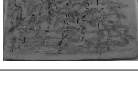
表3 「万葉植物歌絵帖試作（二）」一覧

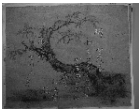
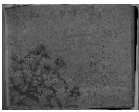
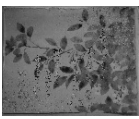
通し番号	画像	材質技法	題材の植物	歌（読み下し）	作者及び所収巻	備考
2-1		紙本彩色金泥、墨書	檜	美閑利春類／迦理波の／を努の／奈羅／し波の／奈礼婆／萬さ良／春／許悲こ曾／万佐礼 み狩りする／雁羽の／小野の／櫟／柴の／なれは／まさら／ず／恋こそ／まされ	作者不詳 （巻12-3048）	
2-2		紙本墨画金泥、墨書		き美閑遊久／日奈駕久／奈りぬ／や万堂川ね／む閑へを／由可牟／萬都尔波／万堂志 君が行き／日長く／なりぬ／山尋ね／迎へか／行かむ／待ちにか／待たむ	磐姫皇后 （巻2-85）	※4
2-3		紙本彩色墨画、墨書	柏か	ち波のぬの／この手閑之波の／保、／万連東／あや尔／可奈之美／於き轉／堂閑岐努 千葉の野の／児手柏の／ほほ／まれど／あやに／愛しみ／置きて／誰が来ぬ	大田部足人 （巻20-4387）	
2-4		紙本彩色金銀箔、墨書	せんだん	堂末丹ぬ久／あうちを／以へ丹／雲へ堂羅／盤／や末は登、／起春／可礼春／来牟／可裳 玉に貫く／棟を／家に／植ゑたら／ば／山霍か鳥／離れず／来む／かも	大伴書持 （巻17-3910）	
2-5		紙本墨画金泥、墨書	忘れ草	和閑屋東の／能きの／之堂久佐／生ひた礼／登／許悲和春連／久さ／見礼尔／ま堂／生悲春 我が宿の／軒に／しだ草／生ひたれ／ど／恋忘れ／草／見れど／いまだ／生ひず	作者不詳 （巻11-2475）	※4
2-6		紙本彩色、金銀箔、墨書	桜	あ之悲き能／や末散久良／波奈／日奈羅へ轉／閑久散岐／堂良／婆／い東許悲め／や母 あしひきの／山桜／花／日並べて／かく咲き／たら／ば／いたく恋ひめ／やも	山部赤人 （巻8-1425）	
2-7		紙本墨画淡彩金泥銀箔、墨書	梓	伊刀古／名兄乃君／居々而／物尔伊行跡波／韓國乃／虎神乎／生取尔／八頭取持来／其皮乎／多々弥尔刺／八重疊／平群乃山尔／四月／与五月間尔／藥獵／仕流時尔／あし悲きの／可堂や末に／布た都多川／以ち閑毛登に／あ須さ／遊美／や川／堂波さ美／完待跡／吾居時尔／佐男鹿乃／来く立）嘆久／頓尔／吾可死／王尔／吾仕牟／吾角者／御笠乃（波）夜詩／吾耳者／御墨垣／吾目良波／真墨乃鏡／吾爪者／御弓之弓波受／吾毛等者／御筆波夜斯／吾皮者／御箱皮尔／吾完者／御奈麻須波夜志／吾伎毛母／御奈麻須波夜之／吾美義波／御塩乃波夜之／書矣奴／吾身一尔／七重花佐久／八重花生跡／白賞尼 いとこ／汝背の君／居り居りて／物にい行くとは／韓國の／虎といふ神を／生け捕りに／八つ捕り持ち来／その皮を／畳に刺し／八重疊／平群の山に／四月と／五月との間に／藥獵／仕ふる時に／あしひきの／この片山に／二つ立つ／櫟が本に／梓／弓／八つ／手挟み／黙待つと／我が居る時に／さを鹿の／来立ち嘆かく／たちまちに／我れは死ぬべし／大君に／我れは仕へむ／我が角は／み笠のはやし／我が耳は／み墨の垣／我が目は／ますみの鏡／我が爪は／み弓の弓張／我が毛らは／み筆はやし／我が皮は／み箱の皮に／我が肉は／み膾はやし／我が肝も／み膾はやし／我がみげは／み塩のはやし／老いたる奴／我が身一つに／七重花咲く／八重花咲くと／申しはやさね	作者不詳 （巻16-3885）	※2 ※4

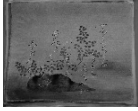
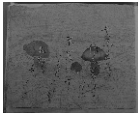
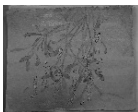
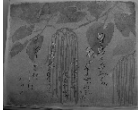
通し番号	画像	材質技法	題材・詠まれるの植物	歌（読み下し）	作者及び所収巻	備考
1-134		紙本彩色金銀箔、墨書、漉込	葦付	乎加末河泊／久礼奈為／尔保布／尔等賈良之／葦付／等流登／湍爾多須／良之雄神川／紅／にほふ／娘子らし／葦付／取ると／瀬に立たす／らし	大伴家持 （巻17-4021）	
1-135		黒地彩色	松	霰打／あ良礼松原／住吉之／弟日娘興／見禮常／不飽香聞 霰打つ／安良礼松原／住吉の／弟日娘女と／見れど／飽かぬかも	長皇子 （巻1-65）	
1-136		紙本彩色金銀箔、墨書	稗	打田／婢數多／雖有／擇为我／夜一人／宿 打つ田には／稗はしまた／ありといへど／選えし我れぞ／夜をひとり／寝る	作者不詳 （巻11-2476）	※3
1-137		紙本彩色金銀箔、墨書、漉込	麦	栢柎越尔／麦咋駒乃／雖冒／猶戀久／思不／勝為 馬柵越しに／麦食む駒の／罵らゆれど／猶し恋しく／思ひ／かねつも	作者不詳 （巻12-3096）	
1-138		紙本彩色金銀箔、墨書	川楊	丸雪降遠江／吾跡川楊／雖莉亦／生云／余跡川／楊 霰降り遠つ淡海の／吾跡川楊／刈れどもまたも／生ふといふ／吾跡川／楊	柿本人麻呂 （巻7-1293）	
1-139		黒地彩色金箔	苡、豆	美知乃倍乃／宇万良能／宇礼尔／波保麻米乃／可良麻流／伎美／乎／波可礼加／由加牟 みちのへの／うまらの／うれに／はほまめの／からまる／きみ／を／はかれか／ゆかむ	文部鳥 （巻20-4352）	
1-140		紙本彩色金箔、墨書、継紙	松	白鳥能／飛羽山松之／松乍曾／吾戀／度／比月比／乎 白鳥の／飛羽山松の／待ちつつぞ／我が恋ひ／わたる／この月ごろ／を	笠郎女 （巻4-588）	
1-141		紙本彩色金銀箔、墨書	萩	葦邊在／萩之葉左夜藝／秋風／之／吹来／苗丹／雁／昨 葦辺なる／萩の葉さやぎ／秋風／の／吹き来る／なへに／雁／鳴き渡る	作者不詳 （巻10-2134）	※4
1-142		紙本墨画彩色金泥金銀箔、墨書、漉込	葦	吾聞之／耳爾／好似／葦若末／乃／足痛／吾勢／勤／多扶／倍思 我が聞きし／耳に／よく似る／葦の末／の／足ひく／我が背／つとめ／給ふ／べし	石川女郎 （巻2-128）	

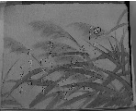
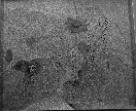
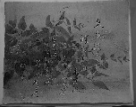
読み下しは上段にくずし字の読み下し、その下に現代仮名遣いを記した。
備考欄 ※1 は和歌の一部のみを書いたものを示す。和歌の前後は太字にて補足した。
※2 は文字の記載が確認できない部分のあったものを示す。それらは該当する句を、久保田淳監修・稲岡浩二著『和歌文学大系 1 萬葉集（一）』一九九七年、『和歌文学大系 2 萬葉集（二）』二〇〇二年、『和歌文学大系 3 萬葉集（三）』二〇〇六年、『和歌文学大系 4 萬葉集（四）』二〇一五年より確認し太字にて補足した。
※3 は読み下しメモの付属していた作品を示す。
※4 は原文と異なるものがあるものを示す。

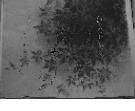
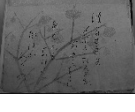
通し番号	画像	材質技法	題材の植物	歌（読み下し）	作者及び所収巻	備考
2－17		紙本墨画、墨書	桂	武可都お可の／和閑、羅木／之都江／東り／波奈萬川／以萬に／奈けき／つ類／可母 向つ峰の／若桂の木／下枝／取り／花待つ／い間に／嘆き／つる／かも	作者不詳 （巻7－1359）	
2－18		紙本墨画彩色、墨書	浮き草	登起きぬの／許非美堂礼川、／うき 久散 の／有き轉も／あ礼婆／ 許非 和太類／閑母 とききぬの／こひみだれつつ／うき まなご ／いきても／われは／ あり わたる／かも	作者不詳 （巻11－2504）	※4
2－19		紙本彩色、墨書	竹	うる堂け農／母東さへ／東と美／以轉、伊奈婆／い徒之牟／幾てか／い母駕／奈け／可む 植ゑ竹の／本さへ／響み／出でて／去なば／いづし向／きてか／妹が／嘆／かむ	作者不詳 （巻14－3474）	
2－20		紙本淡彩、墨書	おけら	許悲之閑婆／処轉毛／布羅牟を／無散之 ぬ 農／うけ羅の波奈の／い呂尔都奈／遊め 恋しけば／袖も／振らむを／武藏野の／うけらが花の／色に出な／ゆめ	作者不詳 （巻14－3376）	※4
2－21		紙本墨画彩色金泥銀箔、墨書	つつじ	や萬許へ轉／東布川の／波末の／い波都、ち／和可幾 む ／萬てに／布、つ美轉／あ理萬豆 山越えて／遠津の／浜の／岩つつじ／我が来る／までに／ふふみて／あり待て	作者不詳 （巻7－1188）	※4
2－22		紙本墨画淡彩金泥、墨書	梨、棗、黍、粟、葛	奈之奈都め／き美に／あ波都き／許布久都の／能遅毛／あ波／牟東／あ保非／波奈散久 梨棗／黍に／粟つき／延ふ葛の／後も／逢は／むと／葵／花咲く	作者不詳 （巻16－3834）	
2－23		紙本金泥	ももよ草	ち、は、駕／東布之之利へ能／母、餘久散／裳、与／い轉万勢／和駕起堂類／萬豆 父母が／殿の後方の／ももよ草／百代／いでませ／我が来る／まで	生玉部足國 （巻20－4326）	※4
2－24		紙本墨画金泥、墨書	山吹	夜萬布岐盤／非尔悲尔／散起ぬ／有留／波之東／あ駕幾／美波／之久、ゝ／於母保遊 山吹は／日に日に／咲きぬ／うる／はしと／我が／ 思ふ ／君は／しくしく／思ほゆ	大伴池主 （巻17－3974）	※4
2－25		紙本墨画淡彩銀箔、墨書	薦	氣比能う美能／尔波与久／あ良志／か李／許母農／美多礼／へつ見ぬ／あ末の／都里／不祢 筍飯の海の／庭よく／あらし／刈／薦の／乱れ／て出づ見ゆ／海人の／釣／船	柿本人麻呂 （巻3－256）	※4
2－26		紙本墨画金泥、墨書	さわらび	い波盤し留／堂類美の／雲への／さ和羅／悲の／裳へい川類／波類丹／奈りに／氣流閑母 石走る／垂水の／上の／さわら／びの／萌え出づる／春に／なりに／けるかも	志貴皇子 （巻8－1418）	
2－27		紙本彩色金泥銀箔、墨書、漉込	つぎね（一人静）	都き祢布／や萬し／ろ／美ち／を／他まの／う末／与理／遊久尔／已夫之／歩従行者／毎見／哭耳之所泣／曾許思尔／心之痛之／垂乳根乃／母之形見跡／吾持有／真十見鏡尔／蜻蛚巾／負並持而／馬替吾背 つぎねふ／山／背／道／を／人夫の／馬／より／行くに／已夫し／徒步より行けば／見るごとに／首のみし泣かゆ／そこ思ふに／心し痛し／たらちねの／母が形見と／我が持てる／まそみ鏡に／蜻蛚領巾／負ひ並め持て／馬買へ我が背	作者不詳 （巻13－3314）	※1 ※4

通し番号	画像	材質技法	題材の植物	歌（読み下し）	作者及び所収巻	備考
2－8		黒地金泥	鶏頭	あ起散羅婆／う都し毛勢牟／東／あ駕末起し／閑羅阿ゐの／は奈を／た禮可／都美／氣無 あきさらば／うつしもせむ／と／わがまきし／からあゐの／はなを／たれか／つみ／けむ	作者不詳 （巻7－1362）	
2－9		紙本墨画彩色金泥銀箔、墨書	檀	美奈布ち能／本所可波や末に／堂川万遊美／遊都閑／萬久／末轉／比登尔／志羅盈之 南淵の／細川山に／立つ檀弓／東／巻く／まで／人に／知らえじ	作者不詳 （巻7－1330）	
2－10		紙本墨画淡彩金泥、墨書	橘	美那非東の／萬遅之／雲の波奈／ち理ぬ東裳／奈久保東、／起春／あ禮／和春禮めや 皆人の／待ちし／卯の花／散りぬとも／鳴く霍公鳥／我れ／忘れめや	大伴清縄 （巻8－1482）	
2－11		紙本墨画淡彩金泥、墨書	朝顔	あ佐の保波／あさ都遊／於非轉／散久尔／いへ／登／遊布閑氣尔／許曾／散き／末散里／鶏理／朝顔は／朝露／負ひて／咲くと／いへ／ど／夕影に／こそ／咲き／まさり／けり	作者不詳 （巻10－2104）	
2－12		紙本墨画淡彩金泥銀箔、墨書	山吹	や萬布起の／尔保へ類／い裳閑／波祢都いる能／あ可裳／す駕堂／いめに／見へ川、 山吹の／にほへる／妹が／はねず色の／赤裳の／姿／夢に／見えつつ	作者不詳 （巻11－2786）	
2－13		紙本墨画淡彩、墨書	橘	堂ち波奈は／美散へ／波奈散へ／所能波／散遍／盈堂／之毛布連等／以や／登許／波／のき 橘は／実さへ／花さへ／その葉／さへ／枝に／霜降れど／いや／常／葉／の木	聖武天皇 （巻6－1009）	
2－14		紙本墨画彩色金泥、墨書、漉込	松、藻、紅葉	角（障） 經／石見之海乃／言佐散久／辛乃埵有／伊久里尔曾／深海松生流／荒礪尔曾／玉藻生流／玉藻成／靡寐之兒乎 ／深海松乃／深目手思臈／左宿夜者／幾毛不有／波布都堂の／和迦連し／来礼は／幾裳／む可布／許、呂／い堂／美／顧為臈／大舟之／渡乃山之／黄葉乃／散之乱尔／妹袖／清尔毛不見／嬌隠有／屋上乃【一云 室上山】／山乃／自雲間／渡相月乃／雖惜／隠比来者／天傳／入日刺奴礼／大夫跡／念有吾毛／敷妙乃／衣袖者／通而（沾）奴 つのさはふ／石見の海の／言さへく／唐の崎なる／海石にぞ／深海松生ふる／荒礪にぞ／玉藻は生ふる／玉藻なす／靡き寝し子を／深海松の／深めて思へど／さ寝し夜は／幾だもあらず／延ふ葛の／別れし／来れば／肝／向ふ／心を／痛／み／思ひつつ／かへり見すれど／大船の／渡の山の／黄葉の／散りの乱ひに／妹が袖／さやにも見えず／妻ごもる／屋上の【一云 室上山】／山の／雲間より／渡らふ月の／惜しけども／隠らひ来れば／天伝ふ／入日さしぬれ／大夫と／思へる我れも／敷袴の／衣の袖は／通りに濡れぬ	柿本人麻呂 （巻2－135）	※1
2－15		紙本彩色、墨書	椿	和幾も許を／波や美／波萬可勢／や末東／那る／あを万都／川婆幾／布可さ流／る／遊め 我妹子を／早見／浜風／大和／なる／我を松／椿／吹かざる／な／ゆめ	長皇子 （巻1－73）	※4
2－16		紙本墨画彩色金泥、墨書	川楊	か波都奈久／む川田の可波能／迦波や幾の／祢毛こ呂／見れ東／あ可ぬ／閑波／可吾衣 かわづ鳴く／六田の川の／川柳の／ねもこる／見れど／鮑かぬ／川／かも	絹 （巻9－1723）	※4 墨流し

通し番号	画像	材質技法	題材の植物	歌（読み下し）	作者及び所収巻	備考
2－39		紙本彩色金泥、墨書	樅	皇神祖之／神乃御言く乃／敷座／國之 盡／湯者霜／左波爾雖在／嶋山之／宣國 跡／極此（疑）／伊豫能高嶺乃／射狹庭 乃／崗尔立而／歌思／辞思為師／遊のへ 能／木無祢を／見祢波／お美の／伎母／ 生比／都き／に／氣理／鳴鳥之／音毛不 更／遐代尔／神左備將性／行幸處 すめろきの／神の命の／敷きませる／国 のことごと／湯はしも／さはにあれども ／島山の／宣しき国と／ごごしかも／伊 予の高嶺の／射狹庭の／岡に立たして／ 歌思ひ／辞思はしし美湯の上の／木群 を／見れば／臣の／木も／生ひ／継ぎ／ に／けり／鳴く鳥の／声も変らず／遠き 代に／神さびゆかむ／幸しところ	山部赤人 （巻3－322）	※1
2－40		紙本墨画彩色金泥、墨書	かづの木 （ぬるで）か	阿し駕理能／和を可氣や万能／か春の木 能／和を／可春散／祢母／可春佐／迦川 東／裳 足柄の／わを可鷄山の／かづの木の／我 を／かづさ／ねも／門さ／かずと／も	作者不詳 （巻14－3432）	
2－41		紙本墨画金泥金箔、墨書、漉込	竹	佐春堂けの／於奈美や非東／の／いへ丹 ／春武／佐保のや末／を婆／お母布や母 ／起美 さす竹の／大宮人／の／家と／住む／佐 保の山／をば／思ふやも／君	石川足人 （巻6－955）	※4
2－42		紙本墨画淡彩金泥、墨書	たまかずら	や末堂氣美／太尔へ丹波へ留／多萬閑都 羅／堂遊留／東起奈久／見牟／与しも／ 我も 山高み／谷辺に延へる／玉葛／絶ゆる／ 時なく／見む／よしも／がも	作者不詳 （巻11－2775）	
2－43		紙本淡彩金銀泥	さきくさ（三椏、 福寿草、沈丁花 などか？）	春去先三枝／幸命左後相／漠戀吾妹 春さればまづさきくさの／幸くあらば後 にも逢はむ／な恋ひそ我妹	柿本人麻呂 （巻10－1895）	
2－44		紙本墨画金銀泥金箔、墨書、漉込		天皇太皇共ニ／大納言藤原／家／ニ／孝 し／日／も美ちせ留／さ波あ羅ニ／支／ 一株違／ぬ連登利て／令持内侍佐々貴山 君遣賜大納言藤原卿并陪従大夫等御歌一 首／命婦誦曰 天皇太后共／幸於大納言藤原家之／日／ 黄葉／澤蘭／一株／拔取／令持内侍佐々 貴山君遣賜大納言藤原卿并陪従大夫等御 歌一首／命婦誦曰	孝謙天皇 （巻19－4268）	原文では なく題詞 の一部を 記載
2－45		紺地彩色金泥	たく（こうぞ）	太久布須末／志羅岐い萬寸／幾美駕／目 遠／計本可／あ春可東／以波比豆／萬太 牟 栲衾／新羅へいます／君が／目を／今日 か／明日かと／齋ひて／待たむ	作者不詳 （巻15－3587）	※4
2－46		紙本墨画淡彩、 銀箔、墨書	ちさ（エゴノキ）	いきのをに／おもへ類あれ／を／や末ち さ能／波奈尔可／岐美閑／雲都呂比／ぬ 良武 息の緒に／思へる我れ／を／山ちさの／ 花にか／君が／うつろひ／ぬらむ	作者不詳 （巻7－1360）	
2－47		紙本彩色、墨書	笹	和家や東濃／い佐、無羅／留け／布久／ 閑勢能／於東の／閑曾け岐／許能／遊布 ／可母 我が宿の／い笹群／竹／吹く／風の／音 の／かそけき／この／タかも	大伴家持 （巻19－4291）	

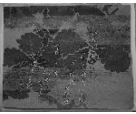
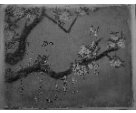
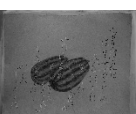
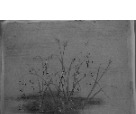
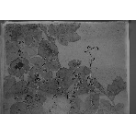
通し番号	画像	材質技法	題材の植物	歌（読み下し）	作者及び所収巻	備考
2－28		紙本墨画金泥、 墨書	めはじき／ つくばね草	和家遅／東に／於布留／都ち波理／許、 呂／餘母／お裳波ぬ／悲東の／き努に／ 春羅遊奈 我がや／どに／生ふる／つちはり／心／ ゆも／思はぬ／人の／衣に／摺らゆな	作者不詳 （巻7－1338）	※4
2－29		紙本墨画彩色銀箔、 墨書	ねっこ草 （翁草・ねじ花）	之婆都支能／美う羅さ岐／奈留／祢川古 久散／あ非見つ／あ羅婆／阿連／許比め ／夜母 芝付の／御宇良崎／なる／ねっこ草／相 見ず／あらば／我れ／恋ひめ／やも	作者不詳 （巻14－3508）	
2－30		紙本彩色、墨書	にこ草	あ之閑支の／奈可能／尔許久散／に己餘 可丹／あ禮奈／盈万し轉／比登に／志羅 遊奈 葦垣の／中の／和草／にこやかに／我れ と／笑まして／人に／知らゆな	作者不詳 （巻11－2762）	
2－31		紺地彩色	たはみづら	あ波を呂可／お呂田に／生け類／堂波美 都羅／比可婆／ぬ留、／吾を／言奈／ 堂へ 安波峰ろの／峰ろ田に／生はる／たはみ づら／引かば／ぬるぬる／我を／言な／ 絶え	作者不詳 （巻14－3501）	※4
2－32		紙本墨画金泥、 墨書	松茸	堂閑萬都の／許能美祢も／勢尔／閑散太 轉、／美ち散可り／堂流／あ起能／香の ／餘散 高松の／この峰も／狭に／笠立てて／満 ち盛り／たる／秋の／香の／よさ	作者不詳 （巻10－2233）	
2－33		紙本墨画淡彩金泥、 墨書	やどりぎ	あし悲岐の／や末能許ぬ連／の／本与登 里／轉／可さし志都久婆／ち東勢／寿登 不 あしひきの／山の木末／の／ほよ取り／ て／かざしつらくは／千年／寿くとぞ	大伴家持 （巻18－4136）	※4
2－34		紙本墨画淡彩、 墨書	ももよ草	ち、は、駕／東の能之利へ能／母、餘久 散／裳、与い轉／萬勢／和我来堂類／末 旦 父母が／殿の後方の／ももよ草／百代／ いでませ／我が来る／まで	生玉部足國 （巻20－4326）	
2－35		紙本墨画、墨書、 漉込	はんのき	非伎間ぬ尔／尔保布波理／波羅／い里美 堂李／岐努に／には波／勢／多の非の／ 之留し／に 引間野に／にほふ榛／原／入り乱れ／衣 に／ほは／せ／旅の／しるし／に	長忌寸意吉麻呂 （巻1－57）	※4
2－36		紙本墨画彩色、 墨書	ねむ	和岐毛己迦／閑堂美能／祢布波／波奈の 美／に／散岐て／氣堂／し久／美に／奈 良し／可母 我妹子が／形見の／合歡木は／花のみ／ に／咲きて／けた／しく／実に／ならじ ／かも	大伴家持 （巻8－1463）	
2－37		紙本墨画彩色、 墨書、漉込	ひかけかずら、 梅	あ之比岐の／や末し堂日可布／可都羅氣 留／有へ尔屋さ良丹／うめやを／しぬ／ 婆牟 あしひきの／山下ひかけ／かづらける／ 上にやさらに／梅を／しの／はむ	大伴家持 （巻19－4278）	※4
2－38		紙本墨画金泥、 墨書	赤芽柏か	努婆堂萬能／夜の布氣ぬ礼／盤／非散木 ／生布留／き餘伎可波羅に／千東李／之 婆／奈久 ぬばたまの／夜の更けゆけ／ば／久木／ 生ふる／清き川原に／千鳥／しば／鳴く	山部赤人 （巻6－925）	

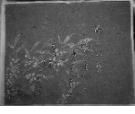
通し番号	画像	材質技法	題材の植物	歌(読み下し)	作者及び所収巻	備考
2－54		紙本墨画金泥、墨書	柳	あ散美東李／曾め閑氣／堂り登／見留未 轉に／波類の／や奈起／盤／母へに／氣 留可母 浅緑／染め懸け／たりと／見るまでに／ 春の／柳／は／萌えに／けるかも	作者不詳 (巻10－1847)	
2－55		紙本墨画金泥、墨書	萩、葦	伊母奈呂駕／都か布閑／佐、羅／乎岐／ あ志登／比東許東／可堂り与／良之母 妹なろが／使ふ川津の／ささら／萩／葦 と／人言／語りよ／らしも	作者不詳 (巻14－3446)	※4
2－56		紺地金泥	蓮	非散閑多の／あ面も布羅め閑／波ち春波 尔／堂萬礼美川能／た末に／尔多類／見 ／牟 ひさかたの／雨も降らぬか／蓮葉に／溜 まれる水の／玉に／似たる／見／む	作者不詳 (巻16－3837)	※4
2－57		紙本墨画金泥銀箔、墨書	蓮	波遅春波、／迦久許尔あ留／もの／於き 萬呂駕／いへ那類もの盤／う裳に盤／あ 羅之／ 蓮葉は／かくこそある／もの／意吉麻呂 が／家なるものは／芋の葉に／あらし	長意吉麻呂 (巻16－3826)	※4
2－58		紙本墨画淡彩、墨書	青菜	春許裳之起／あを奈もち幾／う都へ理尔 ／無可波き／閑け轉／や春武／許の／幾 美 食薦敷き／青菜煮て来む／梁に／むかば き／懸けて／休む／この／君	長意吉麻呂 (巻16－3825)	※4
2－59		紙本墨画淡彩、墨書	薄	可敵里来旦／見牟止おもひ／し／和駕や 東の／あ起波き／春、起／ち理尔／氣牟 ／可母 帰り来て／見むと思ひ／し／我が宿の／ 秋萩／すすき／散りに／けむ／かも	秦田麻呂 (巻15－3681)	
2－60		紙本彩色銀箔、墨書	尿葛	久春波奈尔／波非お保／東れ留／久曾可 都羅／堂遊多／許登奈久／美や都萬へ／ 勢牟 さう莢に／延ひおほ／とれる／尿葛／絶 ゆる／ことなく／宮仕へ／せむ	高宮王 (巻16－3855)	※4
2－61		紙本墨画金泥、墨書	野蒜	比志保春ニ／悲留都閑轉、／堂ひ祢駕／ 布／あ禮丹奈／見勢曾／奈起の／あ都／ 母能 醬酢に／蒜搗きかてて／鯛願／ふ／我れ にな／見えそ／水葱の／羹	長意吉麻呂 (巻16－3829)	※4

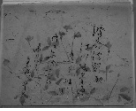
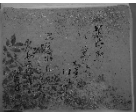
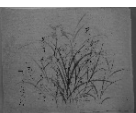
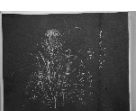
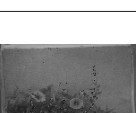
通し番号	画像	材質技法	題材の植物	歌(読み下し)	作者及び所収巻	備考
2－48		紙本彩色、墨書、 漉込	露草	都き久佐二／許呂も曾める／起美可堂免 ／萬多羅の／己ろ裳／春良牟と／毛比轉 月草に／衣ぞ染むる／君がため／斑の／ 衣／摺らむと／思ひて	作者不詳 (巻7－1255)	※4
2－49		紙本墨画金銀泥、 墨書	藤	か春駕ぬの／布ち波／遅理尔起／奈尔を 可裳／美閑りの比東の／於理轉／可佐 ／、牟 春日野の／藤は／散りにて／何をかも／ み狩の人の／折りて／かざ／さむ	作者不詳 (巻10－1974)	※4
2－50		紙本墨画淡彩、 墨書	野老(ところ)	春面呂岐能／可美の／みつ非東／東許呂 徒羅／いや東許／し久尔／あ礼可へ李／ 見無 すめろきの／神の／宮人／ところづら／ いやとこ／しくに／我れかへり／見む	作者不詳 (巻7－1133)	※4
2－51		紙本彩色金泥、 墨書	葎	武久羅波布／いや之岐／屋止毛／お本き 美の／萬佐牟／東／し羅婆／堂万／志閑 萬／之を 葎延ふ／賤しき／宿も／大君の／座さむ ／と／知らば／玉／敷かま／しを	橘諸兄 (巻19－4270)	
2－52		紙本彩色金泥、 墨書	さきくさ(三椏、 福寿草、沈丁花 などか?)	波留佐れ婆／萬川佐起久さ能／散岐久／ あ良波／能ち尔毛／あ波無／那許所／わ き妹 春されば／まづさきくさの／幸く／あら ば／後にも／逢はむ／な恋ひそ／我妹	柿本人麻呂 (巻10－1895)	※4
2－53		紙本墨画彩色金泥、 墨書	梓	伊刀古／名兄乃君／居々而／物尔伊行跡 波／韓國乃／虎神乎／生取尔／八頭取持 来／其皮乎／多々弥尔刺／八重疊／平群 乃山尔／四月／与五月間尔／藥獵／仕流 時尔／あ之非伎の／許能閑堂／や万に／ 不太都／堂川／いちぬ駕／毛東尔／あつ さ／遊美／は都／手婆さ／美比米加夫良 ／八多婆左弥／完待跡／吾居時尔／佐男 鹿乃／来〈立〉嘆久／頓尔／吾可死／王 尔／吾仕牟／吾角者／御笠乃〈波〉夜詩 ／吾耳者／御墨埴／吾目良波／真墨乃鏡 ／吾爪者／御弓之弓波受／吾毛等者／御 筆波夜斯／吾皮者／御箱皮尔／吾完者／ 御奈麻須波夜志／吾伎毛母／御奈麻須波 夜之／吾美義波／御塩乃波夜之／言矣奴 ／吾身一尔／七重花佐久／八重花生跡／ 白貫尼 いとこ／汝背の君／居り居りて／物にい 行くとは／韓國の／虎といふ神を／生け 捕りに／八つ捕り持ち来／その皮を／畳 に刺し／八重疊／平群の山に／四月と／ 五月との間に／藥獵／仕ふる時に／あし ひきの／この片／山に／二つ／立つ／櫟 が／本に／梓／弓／八つ／手挟／み／默 待つと／我が居る時に／さを鹿の／来立 ち嘆かく／たちまちに／我れは死ぬべし ／大君に／我れは仕へむ／我が角は／み 笠のはやし／我が耳は／み墨の埴／我が 目らは／ますみの鏡／我が爪は／み弓の 弓弭／我が毛らは／み筆はやし／我が皮 は／み箱の皮に／我が肉は／み膾はやし ／我が肝も／み膾はやし／我がみげは／ み塩のはやし／老いたる奴／我が身一つ に／七重花咲く／八重花咲くと／申しは やさね	作者不詳 (巻16－3885)	※1 ※4

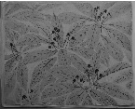
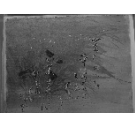
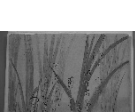
通し番号	画像	材質技法	題材の植物	歌(読み下し)	作者及び所収巻	備考
2－70		黒地彩色金泥銀箔	せんだん	堂末尔ぬ具／あ有ちを／以へ尔／有へ／堂羅／婆／や末本東／支須／可れ寸／幾牟／可裳 玉に貫く／棟を／家に／植ゑ／たら／ば／山霍公鳥／離れず／来む／かも	大伴書持 (巻17－3910)	
2－71		紙本墨画銀箔、墨書	麻	尔波尔堂都／あさを可り／之き／志起之堂布／阿春萬／於美奈遠／和寸禮／堂万／布那 庭に立つ／麻手刈り／干し布曝す／東／女を／忘れ／たま／ふな	常陸娘子 (巻4－521)	※4
2－72		紙本彩色、墨書	梧桐	大伴淡等謹状／桐梧／日本琴／一面／此琴夢化娘子日／余託根遥嶋之崇／啼□九陽之休光／長帶烟霞逍遙山川之阿／遠望風波出入隔木之間／唯恐／百年之後空朽溝壑／偶遭良匠散為小／琴不顧質鹿音少／恒希君子左琴／即歌日	作者不詳 (巻5－810) (和歌)	原文ではなく題詞の一部を記載
2－73		紙本墨画金泥、墨書	ははそ	や萬之奈能／以ほ堂の／をぬの／は、曾／は羅／見川、か／き美閑／や萬ち／許遊良無 山科の／石田の／小野の／ははそ／原／見つつか／君が／山道／越ゆらむ	藤原宇合 (巻9－1730)	※4
2－74		紙本墨画金泥、墨書	藤	伊母駕いへに／伊久理農／毛里の／布ちの／波奈／い萬許牟／波流毛／都祢閑久／之／見無 妹が家に／伊久里の／杜の／藤の／花／今来む／春も／常かく／し／見む	玄勝 (巻17－3952)	
2－75		紙本淡彩銀箔、墨書、漉込	茎萆	岐波都久乃／おか能久、美羅／和礼都め東／許尔母美多奈布／勢奈東／川萬さ祢伎波都久の／岡のくくみら／我れ摘めど／籠にも満たなふ／背なと／摘まさね	作者不詳 (巻17－3444)	
2－76		紙本墨画彩色、墨書、漉込	黄楊	あ佐川久日／牟か布／都氣久／之／布理ぬ連東／奈尔之閑／き美閑／見留に／あ迦佐ら／舞 朝月の／日向／黄楊／櫛／古りぬれど／何しか／君が／見れど／飽かざら／む	作者不詳 (巻11－2500)	※4
2－77		紙本淡彩、墨書	梨、棗、黍、粟、葛	な之な都め／き美尔／あ和／都／き／波布久春能／能ち毛／あ波無／東／あ保非／波奈散久 梨棗／黍に／粟／つ／ぎ／延ふ葛の／後も／逢はむ／と／葵／花咲く	作者不詳 (巻16－3834)	

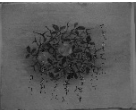
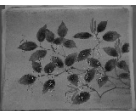
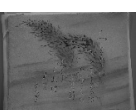
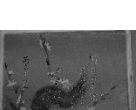
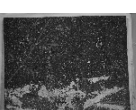
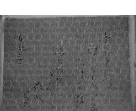
通し番号	画像	材質技法	題材の植物	歌(読み下し)	作者及び所収巻	備考
2－62		紙本彩色銀箔、墨書	雑木	美ち能へ能／い川之婆／波羅の／い都毛／いつ母／悲東の／由留さ無／許東を之／萬堂／武 道の辺の／いつ柴／原の／いつも／いつも／人の／許さむ／言をし／待たむ	作者不詳 (巻11－2770)	
2－63		紙本墨画淡彩、墨書	縄海苔	和堂都美能／お岐川奈波／能理／幾留／東起登／以母駕／萬川羅／牟／都き能／豆尔／川、 わたつみの／沖つ縄／海苔／来る／時と／妹が／待つら／む／月は／経に／つつ	作者不詳 (巻15－3663)	※4
2－64		紙本彩色、墨書、漉込	思い草 (南蛮煙管)	美ちのへ能／尾波奈かも登の／於毛い久散／以萬散羅に／奈曾／毛能閑／お裳波無 道の辺の／尾花が下の／思ひ草／今さらさらに／何をか／思はむ	作者不詳 (巻10－2270)	※4
2－65		紙本墨画淡彩、墨書	大蘭	閑美都けの／伊奈良の／ぬ萬能／お保み久散／餘曾尔／見し／与波／以万許所／萬さ禮 上つ毛野／伊奈良の／沼の／大蘭草／外に／見し／よは／今こそ／まされ	柿本人麻呂 (巻14－3417)	
2－66		紙本彩色、墨書	竹	有ち奈非久／波留さ里／来連ハ／之ぬの／免尔／尾盤うち／布理轉／う久悲春／那久裳 うち靡く／春さり／来れば／小竹の／末に／尾羽打ち／触れて／鶯／鳴くも	作者不詳 (巻10－1830)	※4
2－67		紙本墨画淡彩、墨書	藻	迦ち能東所／保の閑に春奈留／あ末を登め／於起都閑李丹／布奈轉／春類羅／し／裳 楫の音ぞ／ほのかにする／海人娘子／沖つ藻刈りに／舟出／すら／し／も	作者不詳 (巻7－1152)	
2－68		紙本彩色、墨書	桑	堂羅ち祢の／波、駕曾能奈留／久和春良／尔／祢閑へ婆／支ぬ尔／起流ち布／毛能遠 たらちねの／母がそのなる／桑すら／に／願へば／衣に／着るといふ／ものを	作者不詳 (巻7－1357)	※4
2－69		紙本墨画淡彩、墨書、漉込	梅	波留のぬに／奈久や／雲久非春／奈都氣／牟止／和家弊能／曾能尔／雲め閑／波奈／散久 春の野に／鳴くや／鶯／なつけ／むと／我が家の／園に／梅が／花／咲く	志紀 (巻5－837)	

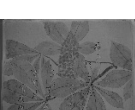
通し番号	画像	材質技法	題材の植物	歌(読み下し)	作者及び所収巻	備考
2－84		紙本墨画淡彩銀泥、墨書	葦、萩	あ之へ奈類／於起の波さや幾／阿き迦勢能／布き来留／奈へル／閑李那き／和堂／類 葦辺なる／萩の葉さやぎ／秋風の／吹き来る／なへに／雁鳴き／渡／る	作者不詳 (巻10－2134)	
2－85		紙本彩色金泥、墨書	柏	以奈美ぬ能／あ閑羅可し／波盤／東起波／あ礼東／幾美を／阿駕／於毛布／登岐盤／散祢／奈之 印南野の／赤ら柏／は／時は／あれど／君を／我が／思ふ／時は／さね／なし	安宿王 (巻20－4301)	
2－86		紙本彩色銀箔、墨書	蓼	和家屋東の／本堂轉布留／可羅／都美於保之／美尔奈流／萬轉／二／き美於之／萬堂無 我が宿の／穂蓼古／幹／摘み生し／実になる／まで／に／君をし／待たむ	作者不詳 (巻11－2759)	
2－87		紺地金泥	うはぎ(嫁菜)	か春閑ぬ尔／け牟理堂川／見由／を登め羅／し／ほ留ぬの／うはさ／都美轉／二羅／し母 春日野に／煙立つ／見ゆ／娘子ら／し／春野の／うはぎ／摘みて／煮ら／しも	作者不詳 (巻10－1879)	※4
2－88		紙本墨画淡彩、墨書	しきみ	於久や萬の／之起美閑／波那能／奈の／許東／や／之久、／き美に／許悲／和堂／留／那理 奥山の／しきみが／花の／名の／ごと／や／しくしく／君に／恋ひ／わた／り／なむ	大原今城 (巻20－4476)	※4
2－89		紙本墨画彩色金泥、墨書	桜	波類さめの／之久、／布類尔／堂閑／末東／能／や末の／佐久羅／盤／い閑に／あ流羅牟 春雨の／しくしく／降るに／高／円／の／山の／桜／は／いかに／か／あるらむ	河辺東人 (巻8－1440)	※4
2－90		紙本彩色、墨書	瓜か	有り波免は／許東母お毛本由／久李波面婆／末し轉／之ぬ波／遊／以川許与理／幾たし／毛の所／末奈可非／に／も東奈可、理て／や春い／し奈さ祢 瓜食めば／子ども思ほゆ／栗食めば／まして／偲は／ゆ／いづくより／来りし／ものぞ／まなかひ／に／もとなかかりて／安寐／し寝なさぬ／	作者不詳 (巻5－802)	
2－91		紙本墨画金泥、墨書	野蒜	悲之本須に／比留都き／可て、／堂非祢駕／布／あ禮尔奈／見勢所／那起の／阿都母能 薺酢に／薺搗き／かてて／鯛順／ふ／我れにな／見えそ／水葱の／羹	長意吉麻呂 (巻16－3829)	※4
2－92		紙本墨画淡彩金泥、墨書	木綿花	や萬堂か美／之羅遊布／波奈に／於ち／たき／川／多き能／閑波ち盤／見れ東／あ閑ぬ／迦裳 山高み／白木綿／花に／落ち／たぎ／つ／夏身の／川門／見れど／飽かぬ／かも	式部大倭 (巻9－1736)	※4

通し番号	画像	材質技法	題材の植物	歌(読み下し)	作者及び所収巻	備考
2－78		紙本金銀泥、墨書、濃込	榆	忍照八／難波乃小江尔／廬作／難麻理豆居／葦河尔乎／王召跡／何為牟尔／吾乎召良米夜／明久〈吾〉知事乎／歌人跡／和乎召良米夜／笛吹跡／和乎召良米夜／琴引跡／和乎召良米夜／彼〈此〉毛〈命〉受牟跡／今日々々跡／飛鳥尔到／難〈置〉〈々〉勿尔到雖不策／都久怒尔到／東／中門由／參納来豆／命受例婆／馬尔已曾／布毛太志可久物／牛尔已曾／鼻繩波久例／あ之非幾の／許の迦堂や万の／裳むに札を／五百枝／は起／東理／天光夜／日乃異尔干／佐比豆留夜／辛碓尔春／庭立／〈手〉碓子尔春／忍光八／難波乃小江乃／始垂乎／辛久垂来豆／陶人乃／所作嶋乎／今日往／明日取持来／吾目良尔／塩と給／賞毛／おしてるや／難波の小江に／廬作り／隠りて居る／葦蟹を／大君召すと／何せむに／我を召すらめや／明けく／我が知ることを／歌人と／我を召すらめや／笛吹きと／我を召すらめや／琴弾きと／我を召すらめや／かもかくも／命受けむと／今日今日と／飛鳥に至り／置くとも／置勿に至り／つかねども／都久野に至り／東の／中の御門ゆ／参入り来て／命受くれば／馬にこそ／ふもだしかくもの／牛にこそ／鼻繩はくれ／あしひきの／この片山の／もむ榆を／五百枝／剥き／垂り／天照るや／日の異に干し／さひづるや／韓臼に搗き／庭に立つ／手臼に搗き／おしてるや／難波の小江の／初垂りを／からく垂り来て／陶人の／作れる瓶を／今日行きて／明日取り持ち来／我が目らに／塩塗りたまひ／きたひはやすも／きたひはやすも	作者不詳 (巻16－3886)	※1
2－79		紙本彩色銀箔、墨書	麦	久へ許之に／牟岐波む／こ有末能／波川、／尔／あ非見し／古羅之／阿や二／閑奈志母 くへ越しに／麦食む／小馬の／はつはつに／相見し／子らし／あやに／愛しも	作者不詳 (巻14－3537)	
2－80		紙本墨画金泥、墨書	豆蔓	美ちのへの／以婆羅能／う礼母／波保萬免能／閑羅万類／き美を／散可礼て／遊可羅 道の辺の／茨(うまら)の／うれに／延ほ豆の／からまる／君を／はかれか／行かむ	文部鳥 (巻20－4352)	※4
2－81		紙本銀泥銀箔、墨書	葛	迦理可祢の／さ無久な起／し与／美都久起の／於閑能／久須波盤／以呂川き尔／鶏李 雁がねの／寒く鳴き／しゆ／水茎の／岡の／葛葉は／色づきに／けり	作者不詳 (巻10－2208)	※4
2－82		紙本彩色、墨書	杉	閑牟奈非の／か美与勢い堂に／春流寸起能／於毛非裳／春幾春／許悲の／之氣幾／尔 神なびの／神寄せ板に／する杉の／思ひも／過ぎず／恋の／繁き／に	柿本人麻呂 (巻9－1773)	
2－83		紺地彩色金泥	磯	美散古ぬ留／以曾み尔／於布流／奈能理曾／能／奈波／之羅之轉与／おや波／志流／止母 みさご居る／磯廻に／生ふる／なのりそ／の／名は／告らしてよ／親は／知る／とも	山部赤人 (巻3－362)	※4

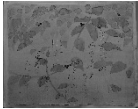
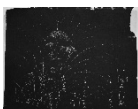
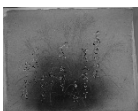
通し番号	画像	材質技法	題材の植物	歌(読み下し)	作者及び所収巻	備考
2-102		紙本墨画銀泥銀箔、墨書、漉込	高野箒	波都波類能／波川祢氣布／の／堂萬波ゝ き／手尔東流閑羅／二／由良久／多麻の 宇 初春の／初子の今日／の／玉箒／手に取るから／に／揺らく／玉の緒	大伴家持 (巻20-4493)	※4
2-103		紙本淡彩銀箔、墨書	豆蔓	美ち能への／う末羅能／呂連尔／波本／ 末面の／閑羅萬類／幾美を／和可礼か／ 遊可無 道の辺の／茨(うまら)の／うれに／延 ほ豆の／からまる／君を／はかれか／行 かむ	文部鳥 (巻20-4352)	
2-104		紙本墨画金泥、墨書	紫草	都久末ぬ尔／た布流／むらさ／き／許ろ 裳／し免／い万堂き春し轉／いろ尔／て 尔氣阿 託馬野に／生ふる／紫草／衣に／染め／ いまだ着ずして／色に／出でにけり	笠郎女 (巻3-395)	※4
2-105		紺地金泥	紅(紅花)	毛能い非の／閑しこ起久二曾／久禮奈ぬ 能／い呂尔奈／以轉曾／おも比／志ぬ／ 東母 言ふ言の／畏き国ぞし紅の／色にな／出 でそ／思ひ／死ぬ／とも	坂上郎女 (巻4-683)	※4
2-106		紙本彩色金銀泥銀箔、墨書	紫草	都久末ぬ尔／於布流／むらさき／許ろ裳 ／し免／い万堂／支春／志轉／い呂尔／ て尔氣阿 託馬野に／生ふる／紫草／衣に／染め／ いまだ着ずして／色に／出でにけり	笠郎女 (巻3-395)	※4
2-107		紙本墨画金泥、墨書	銀杏	ち、の美の／ち、能美許東／波、曾波の ／波、の美已東／遠、呂可尔／許、呂／ 都久し轉／於毛布／羅、牟／ 其子奈礼夜 母／大夫夜／(无)奈之久可在／梓弓／ 須惠布理於許之／投矢毛知／千尋射和多 之／劍刀／許思尔等理波伎／安之比奇能 ／八峯布美越／左之麻久流／情不障／後 代乃／可多利都具倍久／名乎多都倍志母 ちちの実の／父の命／ははそ葉の／母の 命／おほろかに／心／尽して／思ふ／ら ／む／ その子なれやも／大夫や／空しく あるべき／梓弓／末振り起し／投矢持ち ／千尋射わたし／剣大刀／腰に取り佩き ／あしひきの／八つ峰踏み越え／さしま くる／心障らず／後の世の／語り継ぐべ く／名を立つべしも	大伴家持 (巻19-4164)	※1
2-108		紙本彩色、墨書	容花 (ひるがおか)	多閑末東の／ぬへ能／閑本波奈／以母可 けに／見へ川、／伊母志／和春礼／可祢 都裳 高円の／ 野 辺の／かほ花／面影に／見え つつ／妹は／忘れ／かねつも	大伴家持 (巻8-1630)	※4
2-109		紙本墨画淡彩、墨書	蔓	伊李萬ちの／於保や閑盤羅の／い波い都 羅／比閑婆／ぬるゝゝ／和尔／奈尔多へ ／所祢 入間道の／於保屋が原の／いはみつら／ 引かば／ぬるぬる／我に／な絶え／そね	作者不詳 (巻14-3378)	

通し番号	画像	材質技法	題材の植物	歌(読み下し)	作者及び所収巻	備考
2-93		紙本墨画金泥				和歌記載 無し
2-94		紙本墨画淡彩、墨書	櫟、細竹	伊けのへ能／於川岐駕／毛東能／ 之ぬ奈 ／閑李所祢／曾連遠／たに／き美閑／可 堂美／二／見川、／し 努婆牟 ／ 池の辺の／小槻の／下の／小竹な／刈り そね／それを／だに／君が／形見／に／ 見つつ／偲はむ	柿本人麻呂 (巻7-1276)	※4
2-95		紙本墨画彩色銀泥銀箔、墨書	思い草 (南蛮煙管)	美ち能へ能／乎婆奈閑／毛東の／於毛非 ／久散／い萬さ羅ゝゝ／に／那尔可／於 毛／波無 道の辺の／尾花が／下の／思ひ／草／今 さらさら／に／ 何を か／思／はむ	作者不詳 (巻10-2270)	※4
2-96		紙本墨画彩色、墨書	菫	遅波奈ぬ久／あ散ち駕波羅／の／都保春 ／美祢／伊末佐閑李奈梨／あ駕／許布／ 良久盤 茅花抜く／浅茅が原／の／つほす／みれ ／今盛りなり／我が／恋ふ／らくは	田村大嬢 (巻8-1449)	※4
2-97		紙本漆画、墨書	松	あ羅礼 布理 ／あ良礼万都婆羅／春美の江 能／於東非／お東め東／見礼登／あ閑努 ／迦母 霰打つ／安良礼松原／住吉の／弟日／娘 女と／見れど／飽かぬ／かも	長皇子 (巻1-65)	※4
2-98		紙本墨画淡彩、墨書	菖蒲	保東、起春／以登布東き／奈之／あやめ 久散／ 閑都勢牟 ／日／許由奈き／和多礼 翟公鳥／いとふ時／なし／あやめぐさ／ かづらにせむ／日／こゆ鳴き／渡れ	作者不詳 (巻10-1955)	※4
2-99		紙本墨画淡彩、墨書	苔	み与しぬ能／あを祢可／美年濃／許氣無 之呂／堂礼か／遠理け無／多轉 い東 ／奈 之尔 み吉 野 の／青根が／岳の／蘿むしろ／誰 れか／織りけむ／経緯／なしに	作者不詳 (巻7-1120)	※4
2-100		紙本墨画淡彩、墨書	茅	あめ奈類や／散、羅の／おの尔／ち可や 閑理／迦佐可理／婆閑に／う都良 の ／堂 都裳 天に ある や／ささらの／小野に／茅草刈 り／草刈り／ばかに／ 鶉を ／立つも	作者不詳 (巻16-3887)	※4
2-101		紙本墨画金泥、墨書、漉込	紅葉	も美ち春る／登きに奈る／羅し／都き ぬ ち能／か都羅の／え堂能／以呂川久／見 礼婆 黄葉する／時になる／らし／月人の／桂 の／枝の／色づく／見れば	作者不詳 (巻10-2202)	※4

通し番号	画像	材質技法	題材の植物	歌(読み下し)	作者及び所収巻	備考
2－116		紙本墨画、墨書	馬酔木	伊曾のへル／於布留／あ之悲氣／当遠羅め／東／見春へき／岐美駕／阿李登／いへ奈久／二磯の上に／生ふる／馬酔木を／手折らめ／ど／見すべき／君が／在りと／言はなく／に	大伯皇女 (巻2－166)	※4
2－117		紙本彩色、墨書	野薔薇	か羅堂ちの尔／う波羅可李け／久良当／轉牟／具所／東布／久／末禮／く之都久類／刀自からたちと／茨刈り除け／倉建／てむ／尿／遠／く／まれ／櫛造る／刀自	忌部首 (巻16－3832)	※4
2－118		紙本墨画金泥、墨書	ははそ	や萬之奈の／いは堂能／おぬ能／波、曾は羅／見へ都、／き美駕／や万ち／許遊／羅牟山科の／石田の／小野の／ははそ原／見つつか／君が／山道／越ゆ／らむ	藤原宇合 (巻9－1730)	※4
2－119		紙本墨画淡彩金泥、墨書	薄	波堂春、幾／久めの和久許駕／伊万之／け流／ミ保濃／い波や盤／見連東／あかぬ／閑装はだ薄／久米の若子が／いまし／ける／三徳の／石室は／見れど／飽かぬ／かも	博通法師 (巻3－307)	
2－120		紙本墨画淡彩、墨書	藻	和堂能曾許／お起遠布閑め轉／於布留毛農／も波羅／い末之所／己悲波／春へ／奈起海の底／奥を深めて／生ふる藻の／もとも／今こそ／恋は／すべ／なき	作者不詳 (巻11－2781)	※4
2－121		紙本彩色、墨書	八重葎	於毛布悲東／許牟止志理／勢婆／やへむ久羅／お保へ類／尔波ニ／堂末／之閑万之／遠思ふ人／来むと知り／せば／八重葎／覆へる／庭に／玉／敷かまし／を	作者不詳 (巻11－2824)	
2－122		紙本墨画彩色銀泥、墨書	桃花	波類の尔波／久禮奈る尔保布／毛、能波奈／之堂轉留／美ちに／いて／堂つ／あ可川萬春の園／紅にほふ／桃の花／下照る／道に／出で／立つ／娘子	大伴家持 (巻19－4139)	※4
2－123		紙本彩色金銀泥箔、墨書	女郎花	手尔東禮波／曾轉さへ／丹本布／お美／奈へ志／許の之羅／川遊遠／ち良ま／久／於之裳手に取れば／袖さへ／にほふ／をみ／なへし／この白／露に／散らま／く／惜しも	作者不詳 (巻10－2115)	※4
2－124		紙本彩色、墨書	桑	堂羅ち祢の／波、可所能奈留／久波春良／尔／祢可へ盤／きぬ尔／起類ち布／毛能遠たらちねの／母がそのなる／桑すら／に／願へば／衣に／着るといふ／ものを	作者不詳 (巻7－1357)	

通し番号	画像	材質技法	題材の植物	歌(読み下し)	作者及び所収巻	備考
2－110		紙本墨画淡彩、墨書	安倍橘	和き裳許に／あ波春／非散之裳／う萬之毛能／阿へ堂ち／波奈の／許計／牟春／末轉尔我妹子に／逢はず／久しも／うましもの／安倍／橘の／苔／生す／までに	作者不詳 (巻11－2750)	
2－111		紺地金泥	松、藻、紅葉	徒ぬきは布／い波見の／う美の／許東き久／閑羅き起奈留／以久理に曾／布可美類／生布類／荒磯尔曾／玉藻者生流／玉藻成／摩寐之兒乎／深海松乃／深目手思臚／左宿夜者／幾毛不有／延都多乃／別之来者／肝向／心乎痛／念乍／顧為臚／大舟之／渡乃山之／黄葉乃／散之乱尔／妹袖／清尔毛不見／嬌隠有／屋上乃／山乃／自雲間／渡相月乃／雖惜／隠比来者／天傳／入日刺奴礼／大夫跡／念有吾毛／敷妙乃／衣袖者／通而〈沾〉奴つのさはふ／石見の／海の／言さへく／唐の崎なる／海石にぞ／深海松／生ふる／荒磯にぞ／玉藻は生ふる／玉藻なす／靡き寝し子を／深海松の／深めて思へど／さ寝し夜は／幾だもあらず／延ふ蔭の／別れし来れば／肝向ふ／心を痛み／思ひつつ／かへり見すれど／大船の／渡の山の／黄葉の／散りの乱ひに／妹が袖／さやにも見えず／妻ごもる／屋上の／山の／雲間より／渡らふ月の／惜しけども／隠らひ来れば／天伝ふ／入日さしぬれ／大夫と／思へる我れも／敷袴の／衣の袖は／通りて濡れぬ	柿本人麻呂 (巻2－135)	※1 ※4
2－112		紙本墨画淡彩、墨書	玉掃	堂万波、起／迦理幾閑萬本呂／年呂能樹東／奈都め駕／毛東遠／閑起盤可無／当免玉掃／刈り来鎌麻呂／むろの木と／棗が／本と／かき掃かむ／ため	長意吉麻呂 (巻16－3830)	
2－113		紙本墨画彩色銀箔、墨書	梅	美裳呂尔／閑牟奈非／や万に／伊ほへ／散之／志、尔／あひ堂留／都賀の／樹の／いや川岐、ゝゝに／玉葛／絶事無／在管裳／不止将通／明日香能／舊京師者／山高三／河登保志呂之／春日者／山四見容之／秋夜者／河四清之／〈巨〉雲二／多頭羽乱／夕霧丹／河津者驟／毎見／哭耳所泣／古思者みもろの／神なび／山に／五百枝／さし／しじに／生ひたる／梅の／木の／いや継ぎ継ぎ／に／玉葛／絶ゆることなく／ありつつも／やまず通はむ／明日香の／古き都は／山高み／川とほしろし／春の日は／山し見がほし／秋の夜は／川しさやけし／朝雲に／鶴は乱れ／夕霧に／かはづは騒く／見るごとに／音のみし泣かゆ／いにしへ思へば	山部赤人 (巻3－324)	
2－114		紙本彩色、墨書	紅葉、梨	毛美ち波の／尔保日波／之氣之／之閑禮東母／都萬奈之の／岐遠／当於理／閑散佐牟黄葉の／にほひは／繁し／しかれども／妻梨の／木を／手折り／かざさむ	作者不詳 (巻10－2188)	
2－115		紙本墨画金泥、墨書	橡	都留波美能／許呂母盤／悲東美奈／己東／奈之／登、いひ之／登起／餘尔／き本之久／奈里ぬ橡の／衣は／人皆／事／なし／と／言ひし／時／より／着欲しく／思ほゆ	作者不詳 (巻7－1311)	※4

通し番号	画像	材質技法	題材の植物	歌(読み下し)	作者及び所収巻	備考
2－133		紙本墨画淡彩、墨書		都ぬ散波布／以波禮のや万尔／之呂堂へに／閑、禮類／久裳盤／和家於東岐美／か裳 つのさはふ／磐余の山に／白栲に／かかれる／雲は／大君に／かも	作者不詳 (巻13－3325)	※4
2－134		紙本墨画淡彩、墨書	櫨	久方の／天の門開き／当可ち保に／あ面布理／し／春め呂きの／閑美の／美与、／李／波之／遊みを／手尔き利／毛堂／之真鹿子矢を／手挟み添へて／大久米の／ますらたけをを／先に立て／穀取り負ほせ／山川を／岩根さくみて／踏み通り／国求ぎしつつ／ちはやぶる／神を言向け／まつろはぬ／人をも和し／掃き清め／仕へまつりて／蛸蛤島／大和の国の／橿原の／畝傍の宮に／宮柱／太知り立てて／天の下／知らしめしける／天皇の／天の日継と／継ぎてくる／君の御代御代／隠さはぬ／明き心を／すめらへに／極め尽して／仕へくる／祖の官と／言立てて／授けたまへる／子孫の／いや継ぎ継ぎに／見る人の／語り継ぎてて／聞く人の／鏡にせむを／惜しき／清きその名ぞ／おほろかに／心思ひて／空言も／祖の名絶つな／大伴の／氏と名に負へる／大夫の伴 ひさかたの／あまのとひらき／たかちほに／たけにもりし／すめろきの／かみの／みよよ／り／はじ／ゆみを／たにぎり／もた／し／まかごやを／たばさみそへて／おほくめの／ますらたけをを／さきにたて／ゆきとりおほせ／やまかはを／いはねさくみて／ふみとほり／くにまぎしつつ／ちはやぶる／かみをことむけ／まつろはぬ／ひとをもやはし／はききよめ／つかへまつりて／あきづしま／やまとのくにの／かしはらの／うねびのみやに／みやばしら／ふとしりたてて／あめのした／しらしめしける／すめろきの／あまのひつぎと／つぎてくる／きみのみよみよ／かくさはぬ／あかきころを／すめらへに／きはめつくして／つかへくる／おやのつかさと／ことだてて／さづけたまへる／うみのこの／いやつぎつぎに／みるひとの／かたりつぎてて／きくひとの／かがみにせむを／あたらしき／きよきそのなぞ／おほろかに／ころおもひて／むなことも／おやのなたつな／おほともの／うちとなにおへる／ますらをのとも	大伴家持 (巻20－4465)	※1 ※4
2－135		紙本墨画淡彩金泥、墨書	栗	あ之閑羅の／波許祢能／や末尔／阿波萬支轉／美尔盤／那禮るを／あはな久／毛／あや之 足柄の／箱根の／山に／栗蒔きて／実とは／なれるを／栗無く／も／あやし	作者不詳 (巻14－3364)	※4
2－136		紙本墨画淡彩銀泥、墨書	朴	和可勢己家／散、氣轉／毛て類／保、／閑之／波／あ堂の母／に類可／阿をき／岐ぬ末散 我が背子が／擗けて／持てる／ほほ／がし／は／あたかも／似るか／青き／蓋	恵行 (巻19－4204)	

通し番号	画像	材質技法	題材の植物	歌(読み下し)	作者及び所収巻	備考
2－125		紙本墨画金泥、墨書	葛	か美都けぬ／あ曾のや万／都、羅／ぬを／非呂／美／波非に／志／毛能を／あ勢閑／堂へ勢無 上つ毛野／阿蘇山／つづら／野を／広／み／延ひに／し／ものを／あぜか／絶えせむ	作者不詳 (巻14－3434)	※4
2－126		紙本墨画淡彩金泥、墨書	さなかずら	堂万久之氣／美牟呂のや万能／さ奈可都／羅／散祢春婆／川悲尔／あ李可轉／萬之／母 玉櫛笥／みむろの山の／さな葛／さ寝ずは／つひに／有りかつ／まし／じ	藤原鎌足 (巻2－94)	※4
2－127		紙本彩色、墨書	葎	波類のぬ尔／春美祢都みに東／幾し／あ礼曾／ぬを奈川／可し美／悲東祢尔／氣類 春の野に／すみれ摘みにと／来し／我れぞ／野をなつ／かしみ／一夜寝に／ける	山部赤人 (巻8－1424)	※4
2－128		紙本墨画金泥、墨書	銀杏	ち、の美の／ち、能美許東／波、曾波の／波、の／美許登／お、呂閑尔／許、ろ／都久し／轉／於毛布／羅牟／其子奈礼夜母／大夫夜／〈无〉奈之久可在／梓弓／須恵布理於許之／投矢毛知／千尋射和多之／劔刀／許思尔等理波伎／安之比奇能／八峯布美越／左之麻久流／情不障／後代乃／可多利都具倍久／名乎多都倍志母 ちちの実の／父の命／ははそ葉の／母の／命／おほろかに／心／尽し／て／思ふ／らむ／その子なれやも／大夫や／空しくあるべき／梓弓／未振り起し／投矢持ち／千尋射わたし／劔大刀／腰に取り佩き／あしひきの／八つ峰踏み越え／さしまくる	大伴家持 (巻19－4164)	※1
2－129		紙本墨画金泥、墨書	瓜か	う里波め盤／許東母おも保由／久理波め波／萬之轉しぬ婆遊／い川己与李／来太しもの所／万奈可非に／裳東奈可り轉／や須しなさ祢 瓜食めば／子ども思ほゆ／栗食めば／まして偲はゆ／いづくより／来りしものぞ／まなかひに／もとなかかりて／安寐し寝なさぬ	作者不詳 (巻5－802)	※4 箱押ししか
2－130		紺地金泥	秋の七草	は伎可は那／尾は奈／久須／は／奈／奈忌之許／は奈／お美／なへし／末堂／布ちはの末／あ佐／可ほの／は那萩の花／尾花／葛／花／なでしこの／花／をみ／なへし／また／藤袴／朝／顔の／花	山上憶良 (巻8－1538)	※4
2－131		紙本墨画金泥、墨書	尾花、茅など	あきのぬ農／美久散可李／布起／や抒禮理之／うちの／美や己の／閑理以東之／於も本遊 秋の野の／み草刈り／葺き／宿れりし／宇治の／宮処の／仮廬し／思ほゆ	額田王 (巻1－7)	※4
2－132		紙本墨画、墨書	女郎花	遠美奈邇之／佐起散波尔／お布留／波那閑類／美／か都て毛／志羅努／許非裳／須留／可母 をみなへし／佐紀沢に／生ふる／花かつ／み／かつても／知らぬ／恋も／する／かも	中臣女郎 (巻4－675)	墨流し

通し番号	画像	材質技法	題材の植物	歌(読み下し)	作者及び所収巻	備考
2-137		紙本彩色、墨書	橘、松	霍公鳥／来暄五月尔／咲尔保布／花橘乃 ／香吉／於夜能御言／朝暮尔／不聞日麻 祢久／安麻射可流／夷尔之居者／安之比 奇乃／山乃多乎里尔／立雲乎／余曾能未 見都追／嘆蘇良／夜須(家)奈久尔／念 蘇良／苦伎毛能乎／奈良乃海部之／潜取 云／真珠乃／見我保之御面／ひ堂む可非 ／見牟登岐末轉盤／末川可へ能／き閑へ い末さぬ／貴起／吾可／き美 霍公鳥／来鳴く五月に／咲きにほふ／花 橘の／かくはしき／親の御言／朝夕に／ 聞かぬ日まねく／天離る／鄙にし居れば ／あしひきの／山のたをりに／立つ雲を ／よそのみ見つ／嘆くそら／安けなく に／思ふそら／苦しきものを／奈良の海 人の／潜き取るといふ／白玉の／見が欲 し御面／直向ひ／見む時までは／松柏の ／栄えいまさぬ／貴き／我が／君	大伴家持 (巻19-4169)	※1 ※4
2-138		紙本墨画金泥、 墨書、漉込		天皇太后共／大納言藤原家ニ／み遠し、 ／日／も美ちせ留／さ波あ羅ニ／幾を／ 一株遠／ぬ起登りて 天皇太后共／幸於大納言藤原家之／日／ 黄葉／澤蘭／一株／拔取／令持内侍佐々 貴山君遣賜大納言藤原卿并陪従大夫等御 歌一首／命婦誦曰	孝謙天皇 (巻19-4268)	原文では なく題詞 の一部を 記載 植物を漉 き込む
2-139		紺地金泥	蓮	はち春婆波／可久許曾あるも能／於起萬 ろ／駕／以へある／褒の／う母能／はに ／あ羅し 蓮葉は／かくこそあるもの／意吉麻呂／ が／家なる／ものは／芋の／葉に／あら し	長意吉麻呂 (巻16-3826)	※4
2-140		紙本墨画淡彩金銀 箔、墨書、漉込	むろ	和き裳許の／見し東も／う羅の／む呂の ／木盤／登許尔あ連東／見し／非東／曾 ／奈幾 我妹子が／見し頼の／浦の／むろの／木 は／常世にあれど／見し／人／ぞ／なき	大伴旅人 (巻3-446)	※4
2-141		紙本墨画淡彩	薄か			和歌記載 無し
2-142		紙本墨画金泥				和歌記載 無し
2-143		紙本墨画金泥、 墨書	檜扇	ゐあ閑之轉／き美を可／萬堂無／ぬ婆堂 末の／あ駕久呂／可美尔／志も波／布類 ／東裳 居明かして／君をば／待たむ／ぬばたま の／我が黒／髪に／霜は／降る／とも	磐姫皇后 (巻2-89)	※4
2-144		紙本彩色金泥、 墨書	葦、尻草	美奈止あ之尔／萬ち祢留／久散濃／志理 具さ能／非東美奈／之理ぬ／和賀／之堂 ／お母非 港葦に／交じれる／草の／しり草の／人 皆／知りぬ／我が／下／思ひは	作者不詳 (巻11-2468)	※4

読み下しは上段にくずし字の読み下し、その下に現代仮名遣いを記した。

備考欄 ※1は和歌の一部のみを書いたものを示す。和歌の前後は太字にて補足した。

※2は文字の記載が確認できない部分のあったものを示す。それらは該当する句を、久保田淳監修・稲岡浩二著『和歌文学大系1 萬葉集(一)』一九九七年、『和歌文学大系2 萬葉集(二)』二〇〇二年、『和歌文学大系3 萬葉集(三)』二〇〇六年、『和歌文学大系4 萬葉集(四)』二〇一五年より確認し太字にて補足した。

※3は読み下しメモの付属していた作品を示す。

※4は原文と異なるものがあるものを示す。